

武蔵野市第四期長期計画調整計画市民会議

行・財政分野市民会議

第8回

平成18年12月24日（日）

武蔵野市役所6階 601会議室

午後 2 時 開会

1 開 会

○菊池 皆さん、こんにちは。何人か、やや遅れていらっしゃるかと思いますが、定刻になりましたので始めさせていただきます。

きょうは、せっかくの日曜日、また非常に天気がよくて、しかもクリスマスというときにお集まりいただいて恐縮でございます。よろしくお願いいたしたいと思います。

それでは、まず最初に、お手元に配付されている資料等、それから前回の審議等に関して、名古屋さんの方から報告がございますのでお願いいたしたいと思います。

○名古屋財政課長 それでは、まず、お手元に配付してあります資料、「新しい地方財政再生制度の整備について（概要）」について、簡単にご説明したいと思います。

こちらは糸井委員さんから依頼がありました件でございまして、新しい地方財政再生制度研究会という総務省の研究会でございしますが、こちらが今月 8 日に報告書をまとめたことにつきまして、18 日に朝日新聞で取り上げられておりました。そのことについての情報提供でございます。

こちらは、北海道夕張市のような自治体の破綻を未然に防ぐことを目的としたもので、自治体の財政の全体像がわかるような新しい財政の指標づくりを急ぎ、財政悪化の早期是正を行うこと。それから、情報公開の徹底と財政規律の強化を内容としたものでございます。後ほど、こちらの方はごらんいただければと思います。

それから、三上委員から、きょうまだお見えになっていないんですが、平成 19 年度の地方税制の改正における減価償却制度の見直しについての市税への影響額ということでご質問がございました。法人所得課税における減価償却制度の見直しにつきましては、償却可能限度額を廃止するということになりましたが、地方税、固定資産税の償却資産については現行の評価方法を維持することとなりましたので影響はございません。

なお、私どもで事前に試算をいたしましたところ、4 億円ほどの減収になると見込んでおりましたが、そういうことがなくて若干安心しているところでございます。

もう 1 点、今、高木委員さんからご提案がございました。今お配りをしておりますので、高木委員さんから何かご説明があればお願いいいたします。

2 議 事

市の行財政に関する討議（ブレインストーミング）

○菊池 それでは、高木委員からご提出いただいた、今お手元に配付されたと思いますが、高木さん、これに関して簡単にご趣旨をご説明をいただきたいと思います。

○高木 済みません、お時間をとらせてまして。

この行・財政の分科会だけにかかわる問題ではないのですが、全体の今後の運営といたしますか進行について、前回、終わりごろに1度ご提案を申し上げまして、山本課長の方からももう少し検討してみるというお話があったんですけども、時期的にもいろいろ押し迫ってまいりましたので、ぜひお取り上げいただきたいということで、もう少し詳しく文章にまとめてみました。

ご提案しておる中身は2つでございまして、1つは、近く各分科会が集まって全体会のようなものが開けないかということです。もう1つは、その記事なども含めて、市報の特集版をつくって、市民会議の活動内容を市民向けに広報してほしい。この2つでございませぬ。

趣旨でありますけれども、4月にそれぞれの分科会が提言をまとめるということで努力を重ねておるわけですけれども、私だけでなく皆様もそうだと思いますが、最大の懸念している内容というのは、せっかくこれだけのことを、それこそクリスマスイブまで集まってやっておるわけですけれども、単なるガス抜きというか、市民が参加しているいろんな意見を言いましたというだけで終わらせたくない。最終的に策定される調整計画の中に、各分野での議論が盛り込まれていく、ないしは大きな影響を与えるというようなことをぜひしたい、それでこそ初めて市民参加の実を上げるということになるのではないかと、こう思っておるわけです。

そういう点で言うと、その焦点となってくるのは、4月につくられる提言が実際の策定委員会の作業にどういうふうに影響を与えるかということだろうと思っておりますけれども、そのときに1つ懸念しておるのは、今の状況ですと、各分野の議論だけをしているということで、それぞれほかの分野がどういう議論をしているのかわからないということになりますと、言ってみれば、それぞれがそれぞれ勝手なことを言って、整合性とか全体の状況というのはかかわりなく言いたいことを言った、市民の意見だ、こういうことになりはしないかということでございます。

そういう点では、特に行・財政というのは、それぞれがこんなことをやりたいというこ

とを行・財政の分野でそれを実現するにはどうすればいいかというふうなテーマでもありますし、行・財政の実情がこうなんだから、それぞれの分野でこういうことをしたくても、これは我慢してくれという議論でもあるわけですから、そういうことのフィードバックが相互になくて、行・財政だけの提言というものは、ある意味では、絵に描いた餅とは言いませんけれども、そういうことになりかねないのではないかと考えると、要綱には、それぞれの分野がそれぞれの提言を出すとは書いてありますけれども、一定の整合性とかいろんな議論というものは、あればあるだけいいことだろうという点では、最低限、この段階で全体会というものを持って、それぞれの問題意識とか議論の状況を把握した上で自分たちの提言もまとめるということが必要なのではないだろうかということを1つは考えておるわけです。

さらには、いろんな分野のところで既に議論になっておるそうですけれども、最終的な策定委員会が、学者の先生方、それから市の助役さんと、分野の市民委員が1人ずつ入ってやるということになっているけれども、それで本当にいいかどうかという議論もされておるようです。私は別にそれでいいんじゃないかと思っておるんですが、それにしても、具体的に市民会議としてそれにどういうふうにかかわっていくのかということ、それぞれの分野というだけではなくて、全体で意見を交換してみるということも、1つ必要なことではないかと思っているわけです。

もう1つは、この間も申しましたように、せっかくこれだけのことをやっているのに、これが、ここに参加している97人の委員の中だけの議論に終わってしまうということが非常に残念である。こういうことを今、武蔵野市で取り組んで、こんな議論が真剣に交わされているということや、さらには、この機会に市民がいろんな意見を言えば、いろんな形で取り入れられるということ、最終的な提言をまとめる前に、市内に広報してやるということが必要なのではないだろうか。その点では、いろんな場面で、市報の特集版みたいなものが出ることはあるわけですから、決してできないことではないんじゃないかと思ったわけです。

最後に、もう少し具体的にということで、これは私の勝手なあれですけれども、4月に提言をつくる上では、恐らく3月までにまとめるということになると、やっぱり時期的には1月末とか2月の初めという時期に全体会を開かないと意味がないだろう。日程的には非常に厳しいわけですが、それぞれの分野の意見もまとめていただいて、やるということになれば、1月末とか2月に全員が出席するということは物理的に不可能でしょう

から、出られる人だけが出てきて、日程さえとって、みんなで確認をすれば、各分野から1人ぐらい代表が出て、企画の担当者の方と調整をして、どういう運営の仕方をするのか。私の意見では、それぞれ5分野からの議論の状況の簡潔な報告を踏まえて、提言をどうやってまとめるのか、その際に総論というものをつくるのか、全体の整合性をどうするのか。できた提言をどういう形で策定委員会に報告して、策定委員にどういうふうの実効性を持ってもらうのかということをし、全体でやるという会議ではどうだろうか。

加えて、市報の特集版ということになりますと、4月にまとめるとなると、まとまっちゃってから報告というのはつまらないので、1つは、この全体会の様子をきちんと報道すれば、ある程度のものが、各分野の議論の実際が伝えられるのじゃないかということで、これも思いつきですので、もっと具体的なあれが別にあるのかもしれませんが、各分野から1名ぐらい編集委員と、企画や広報の担当者の方々に編集を練れば、そんなに時間をかけなくても3月早々とかという時期にそういうものは発行できるんじゃないかと思っております。

いずれにしても、慌ただしい提案だということはおわかりしておりますけれども、このぐらいまで事態が進んでこない、こういうことが必要だということも余りはっきりわかってこないという点ではやむを得なかったのかなと思っておりますし、ある意味では、初めての試みですから、いろんな思いつきがあってもいいんじゃないかということで、ぜひお取り上げていただければと思っております。

最後のところは決しておどしているわけでも何でもないんですけども、どうしても市の方でやってくれないなら、自分たちで呼びかけて全体会をやることだってできなくはないんだよということをちょっと申し上げて、提案にかえさせていただきます。

○菊池 ありがとうございます。

これは後でまた、皆さんでご議論いただくとして、次に、お手元に配付した資料につきまして、皆さんに既にメール等で配付されているかと思っております。お手元に配付されました4枚つづりのもの、私が前回お約束したものですけれども、こんな形でつくってみたということで、作成に当たっての考え方を簡単にご説明申し上げます。

大体ごらんになっておわかりのように、澤田さんの方でつくっていただいた表をもとに、皆さんから出されたすべての提案をまず縦一線に並べました。全部網羅しているつもりですが、もしも欠けている部分がありましたらご指摘ください。私も間違いを犯しやすい人間ですので、落としている部分があるかもしれませんが、大体載せたつもりです。

その上で、関係するもの同士をくっつける作業を2番目にやってみました。グループ化したということでしょうか。

そして、これらは市民の要望事項であるということで、一番左側に並べ、さらにそれを「基本理念」というように、1番にくくられる部分でまとめました。ここに入ったのはどういふ部分かといいますと、皆さんから出てきたご提案のうち、抽象的と思われるもの、そういったものは結局、自治基本条例等の中で具体的に今後検討していくべきだろうというような勝手な判断で、「基本理念」の中へとりあえず入れさせていただいたということでございます。

こういったいろんな意見が出ているんですが、それを絞り込む作業ももちろんあるんですけども、要するに、これらは、皆さんから出てきたご提案を達成する手段としては、自治基本条例を早期に制定・施行することで、この中の議論が自治基本条例の中に盛り込まれていくことになるだろうというように考えてみたわけでありませう。

2ページ目に移りまして、今度は「行財政」ということで、まず行財政を2つに分けました。1つは、「組織・制度改革」というところでございます。ここに皆さんのご提案を縦にずっと並べまして、グループ化をしました。そのグループ化したものをとらえて、これらのご提案を達成する具体的な手段としてはどういうことを考えればよいのかということを書きましたのが右側の言葉でございます。これはありふれた言葉で言いあらわしていませんので、インパクトはありません。そのとおりに中身をとらえてみたものにすぎませう。それが幾つか細かいものになって出てきているかと思ひます。

それから、大急ぎ、全体を説明申し上げますと、3ページに移りまして、今度は財政の部分ということで、「歳出歳入の見直し」、こんなふうにとらえてみました。この中には、まず「公共事業の削減」というのがあります。これはご提案をそのまま右側に達成手段としました。ご提案の内容と達成手段を同じ言葉で言いあらわせるだろうということで、「公共事業の削減」。したがって、これは当然、歳出の縮小につなげる提案でございます。

2番目が、「目標数値の設定を目指す財政」。これは非常に抽象的なんですけども、言わんとすることはわからないでもないので、ここで取り上げ、独立させた達成手段の中に入れておひます。

その下は、大なり小なり、何とか市の増収策を考えようとする範疇に入るご提案というふうにとらえて、ここに一まとめにいたしました。達成手段としては、月並みな言い方ですけども、「歳出歳入の見直し」。「再検討」という言葉でもいいですが、こんなような言

葉でしてみました。

次は、3、4、5と、4ページにわたってございますが、これは他の分科会が検討すべき事項ながら、皆さんの中から出てきたご提案でございます。そこで、一応グループ化いたしまして、これらを右側に書いております、健康・福祉の部分であれば、「きめ細かな健康・福祉対策」というような名目で、ここに入っております。例えば、2ページ目のちょっと上の方にありますが、「市民サービスの改善」とまとめたグループ。その下側に、「すぐやる課の設置」というものがあります。その下に、字体を斜めにしたもので4つ挙げております。これが他の分科会の関連事項として、簡単な言葉でこのようにまとめて、この表の「組織・制度改革」の中の一応取り込んでみた。こういうような作業をいたしました。

それから、一番最後のページ、7「その他」とあります。僭越ながら、皆さんから出されたご提案のうち、これはどうも、例えば他の民間企業であるとか他の公的機関であるとか、そこが行っている事業について、こうしたい、ああしたいというご提案等々がございまして、我々市民あるいは市が独自に行おうとしても、相手あってのことなので、ちょっとこれは外側に置かせていただいたということでございます。いや、そんなことはない、当然中に入るよというのであれば、それはそれで、中にまた取り込んでいただきたいと思うんですけども、そんなようなことを感じました。例えば、郵便局の24時間設置。郵貯銀行に今度かわるようですけども、これはそちらの業務でありまして、こちらが望むようにはならない部分もありますので、ちょっと別枠に置かせていただいた、そんなようなことで作業してつくり上げたものでございます。

(パワーポイント)

それから、このようにつくった上で、実は前回のこの会議の中で、皆さんから出されたご提案のうち、既に市が実行済みのもの、あるいは一部実施済み、実施中のもの、検討中のもの、長期計画に位置づけられているものということで、今画面に映っておりますが、こういうような色分けをしてみたわけでございます。

なぜこんなことをいたしましたかといいますと、例えば、既に実行済みのもの、これは皆さんのご議論の中から外してよいだろうと思われる部分も当然あるわけでありまして。それから、一部実施中のものは今動いているわけですので、これも場合によっては外してよいのかもしれない。検討中のものは、皆さんのご提案の中に含めていいという部分もあろうかと思えます。というわけで、ちょっと色分けをしてみました。

例えば、今後の作業としては、これは実施済みだから削っていきましようという話にも

なるでしょうし、それから、私が一番気をつけなければいけないのは、確かに実施済みあるいは実施中だけれども不十分だ、もっと力を入れてやるべきだというご議論も当然あるかと思うんです。それはそれで生かす形で、提案の内容を変えればいいわけです。既に実施済みだけれども、もっと集中して、徹底してやるべきだとか、もっと継続すべきだとか、提案の文言を変えればいいんじゃないかと思うんです。そういう作業が出てくるかと思えます。ということで、こういう色分けをしてみました。

きょうの議論にこれをどうつなげるのかということで、私が皆さんに1つのサジェスチョンとして申し上げたいのは、今申し上げた作業と同時に、お手元に「基本構想・長期計画」を皆さんお持ちだと思えますけれども、119 ページをごらんになっていただきたいと思うんです。「行・財政」ということで、次のページにわたりまして、おおよそのアウトラインが示されております。左が「基本施策」、そこから出てくる「施策」、具体的な事業内容、それから、今後の事業の期間といったようなことが簡単にアウトラインとして示されているわけです。

皆さんから出てまいりましたご提案をこうした形で整理していき、最終的には、119 ページの赤い部分、「事業」の中に、皆さんから出てきたご提案を「これはここに入りますね」というように入れていく作業、これをやった上で、文章化ということを考えると、文章化する段階で比較的やりやすいのではないかと、そんなようなことをちょっと考えました。

したがって、今後、何段階か皆さんに具体的な作業をしていただかなければならないかなと思うんですけれども、最後に、私のつくりました表に関して感想といいたいでしょうか、僭越ながら申し上げさせていただきますと、このようにグループ分け、整理してみたのは、例えば、基本条例等あたり、これは検討中であるとはいえ、皆さんはもっと早目にやるべきだということで大変意義があると思います。それから、公会計制度の早急な改革ということも皆さんからしきりに出てきたご意見で、これは長期計画策定の一番基本になる部分ですから、大体皆さんも強調されているように思って、私もよい方向なのではないかなという印象を持っております。

もう1つ、総花的にいろいろ出ているんですけれども、ごめんなさい、勝手なことを言います。インパクトに欠ける部分があるなという気がしてしようがありません。ご承知のとおり、武蔵野市と競合している芦屋市が豪邸条例をつくったと、最近話題になっております。あそこまで全国の話題になるようなことはともかくとして、もうちょっと市民らしいインパクトのあるご提案が何か出ないのかなと、私自身もやきもきする部分があるんで

すけれども、皆さんのお知恵をもう少し拝借すれば何か出てくるんじゃないかと期待しております。

最後に、私、一応ご提示しましたけれども、これとは別に澤田さんは澤田さんの方で苦労されてつくってくださっていますので、それも十分生かしながら、この局面が私は一番重要だと思っています。仮に時間がかかったとしても、皆さんの意見をとにかくうまく集約していこうという一番大事な局面ですので、これをおろそかにしますと、さっき高木さんがちょっとおっしゃったように、「結局ガス抜きだったじゃないか」なんていう結果になりかねません。

私も、数多くはないんですけれども、これと似たような経験を何度かしている中で、一番大事な局面じゃないかというように思います。市民の皆さんが日ごろ感じておりますそれを、とにかく何かに集約させて策定委員会に持ち込み、そこでもインパクトあるものとして最終的に生き残る。つまり、具体的な政策として実施に移されていく。数は少なくてもいいから、そういうインパクトのあるものをつくっていただけたらという気がしてしょうがありません。余計なことを言いました。

以上、私の方の案づくりの基本説明でございます。

ということで、いよいよ議論に入っていきたいと思うんですけれども、先ほど出していたいただきました高木さんのご意見、今の私が勝手につくりました表の取り扱い方、それから、澤田さんにつくっていただいた表、もう1度提示していただけますか。

○澤田 持ってこなかったんですが。

○糸井 でも、澤田さんのやつはほとんど入っているわけでしょう。

○菊池 はい。一応は全部入っています。

○糸井 そうしたら、いいんじゃないですかね。進化した中身なんだから。

○長屋 今に関連してよろしいですか。本当にお休みのところ貴重な時間なのできばきとやりたいと思いますが、せっかく先生にまとめていただいたんですけれども、これはブレインストーミングでぼんぼんとみんな言って、表題は出ているけれども、これでも言葉足らずでもあるんだけれども、中身が必ずしも、あなたはどういう思いでこの提案をしたんですかという議論までいっていないんですよ。したがって、これをぽっと出すというのは、中にははっきりしたのもあるけれども、非常に危険だと思います。

例えば、基本条例の整理検討なんていうのは、皆さん、これをお持ちですか。僕はこれに文句を言ったんですが、「武蔵野市行財政集中改革プラン」の20ページに、「自治基本条

例制定の検討」という言葉で使われているわけです。武蔵野市には自治基本条例というのはないんです。ないのをどうやって整理、検討するんですか。

○菊池 ですから、私は外したので……。

○長屋 外したんだけど、まあいいや。それで、「自治基本条例制定の前倒し」、これは誤解を招いちゃうんだよね。ブルーでなっているんだけど、これは前倒しなんだから。これの20ページでは、本当に早くやってほしいんだけど、18年度は検討、19年検討、20年検討、21年実施なんですよ。これ、物すごく時間がかかるんですよ。ほかの例で見てもね。ですから、こういうのはまさに、先生のおっしゃるこれはということにはならないかもしれないけれども、条例をつくる時期を早めるということは、これまた提案なんですよ。

○菊池 そうです、そうです。ですから……。

○長屋 そういうことも新しくほとんどいろんなことで検討しているわけだから、早くやってくれというのも、インパクトとおっしゃったんですかね。

○菊池 そうです。

○長屋 それで、ちょっとついでで申しわけないですけども、今度これ全部持ってこいと言われたので持ってきました。さっきも先生がおっしゃられたか高木さんがおっしゃられたか知りませんが、行・財政分野で我々の案というか、我々の出したことが最終的には実現されたいですよ。実現してもらうためには、この行・財政分野というか、荒唐無稽な、例えば宇宙ロケットを上げるとかいうのは無かったけれども、そういうことは言うてもしょうがない。それで、私はもとへ戻ったんです。

ということは、経営理念である。まずどういう長期計画の理念があるのかと調べていったら、ここで書かれていることは、10ページに「都市の窓を開こう」「新しい家族を育てよう」「持続可能な社会をつくろう」ということなんです。これで私にとってよくわかるのは、「持続可能な社会をつくろう」ということが一番具体的ですね。持続可能な社会がどうもいろんな面で、財政面、環境面、そんな面で非常に不安定というか、危なっかしくなっているんで、そうならないように、今我々は将来、我々の子孫のためにやっている、私はそういう認識でこの会に来たんです。勉強しながらね。

それで、本当にこれだけは言いたかったんだけど、1つ、いい例があるんです。ムーバスの話なんです。ムーバスの話はいいや。

「武蔵野市行財政改革検討委員会報告書」が基本になっていますでしょう。これを受け

てかどうか知らないけれども、「第二次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針」、これは大変申しわけないけれども、おさらいです。これは僕、2回目に言うんです。私が申し上げたいのは、こういうことを頭に描きながら、具体的なインパクトのあるアイデアを出していけば、最終的に取り上げられるというか実行されるんじゃないかということで申し上げているんです。大変くどいようですが、これの2ページには、「事務事業の見直し」。さっきの119ページのは全部そういうことですよ。それから、2番目は「スリムで柔軟な組織・人事体制の構築」。3番目が「健全な財政運営と効率的な行政経営」。これは大枠ですよ。これに入っていくような、大抵のものはこれに抵触というか当てはまるんですけども、4番目は「市民協働の積極的推進と行政サービスの向上」、この4つが大きな柱になっていると思うんです。

それで、もう1つ、アクションプランはともかくとして、これの方が先ですけども、「武蔵野市行財政改革検討委員会報告書」というのがありますね。これはいろいろ書いてあるけれども、最後の方にまとまっているわけです。市役所の職員数が、多摩の他市と比べて、1万人当たり20名ぐらい多いとかそういうことが書いてあるんですが、この中では財政危機が言われているんです。

私はこれで大事だなと思ったのは、50ページの最後の方に「投資的経費をいかに計画的に確保していくか」ということが書いてあるんですけども、大事なことは、「財政の健全性を維持している今から」、今健全だからね。「行財政改革に果敢に取り組む」必要がある。そのためには、スピードを速めていく必要があるということで、これは精神論ですけども、こういうことが書いてある。申し上げたかったのは、我々の行政部門としては、4つの枠組みは外せないんじゃないかと。

それで、ムーバスのお話をしたい。本当に申しわけないけれども、ムーバスというのはこの分野に入れられちゃったのかな。「都市基盤」ということになっているけれども、とんでもない話でね。これは財政にも関係するし、環境面にも関係する、それから健康面に関係する。少し説明しますと、ムーバスは真っ赤っかなんですわ。要は車両代は市が出しているわけですから、私の計算では、1億5000万円か2億円かが赤です。これは永遠に赤です。18年度の予算では8900万円の予算が立ててあります。総予算が151億円かな、そのうちの8900万円、これ間違っていたら市の人も言ってほしんだけけど、真っ赤っかなわけです。ですから、私は少なくとも100円を200円にしろと。なぜかといったら、便益を得ているんだから、それに対価を払ったらいんじゃないか。300円。こういうものをう

っちゃつといて、100 円のままでいいんだよということでは、僕は、財政改革は何だと言いたいですね。

それから、2 番目、これが一番大切だかどうか知らぬけれども、緑の何とかとか、あるいは京都議定書を守るとかいろいろ提案がありました。その具体的なことがムーバスの背景にあるわけです。今まで何トンのCO₂をまき散らしたのか。ぐるぐると狭いところを。それは、遠方の人がいる。だけど代替案があるんです。それはレモンキャブかな。レモンキャブの問題については、この間、きょう持ってこられた方もいるかもしれないけれども、「第四期長期計画実施状況」に、レモンキャブが出てくるんです。レモンキャブの使用率が低い、たしかそういうふうに書いてある。レモンキャブを使うようにと。レモンキャブを使えばいいじゃないですか。ちゃんと代替案があるんです。それが2 番目。

3 番目は健康ですけども、これは皆さんもおわかりというか感じておられるように、歩くということはすごいことなんです。ですから、これは長期的に言ったら、武蔵野市民は介護保険のサービス利用率とかそういうのは、残念ながら平均より高くなるんじゃないですか。「ちりも積もれば山となる」で、健康ですから。こういう1 つの問題の中には、単なるどこかのカテゴリーにぼんと入れるのではなくて、いろんな角度からの問題があるんです。

そういうことで、ここからが提案で、いろいろ出ているけれども、しばらく議論をして、その結果、ご自分がいろいろ出された案が、先生もさっきインパクトとおっしゃったけれども、インパクトがあるのも1 つでしょうし、自然に自分の中で3 つか4 つか出したときに、「私はこれは絶対やりたいな」というのは1 つか2 つかあると思うんです。「だけど、これはだれだれさんと同じだな。じゃジョインするわ」ということで、それでもいいですよ。自分がやったとかあなたがやったとかそういうことはなしにして、あくまでも、市民のためであり、将来世代のために、ここでインパクトというか、当たらないかどうか知らぬけれども、本当に斬新な、ほかの市もやっていないようなことはそんなにない。それはおくれてきたところを取り返すとか、そういうことをやれば、これは自然的に受け入れられると言うと変だけど、取り上げられて実施されるんじゃないかと思います。

それで、とにかくもう、私は悲観論じゃないけど、いろんな意味でかなり追い詰められているもので、ここで踏ん張るために、自己規制も必要だと思うんですよ。議員定数が30 から25 なんて言っているようではだめなんです。やるんだったら20。それから、職員の方もいろんな意味で多かったら減らす。給料も減らすと言うと怒られちゃうけど、それは、

我々の税金がこれからまた上がってくるわけですよ。キーワードは共生というかな、みんな生きて、みんな痛みを分かち合って、そして生きる。その集約するところが、これは土屋さんが言ったかどうか知らぬけど、持続する社会であり、そういうことだと思います。

そういうことで、提案は、とにかくこれは切りがないですよ。民主的にあなたも意見も上げましょうとかどうとかこうとかって。一番民主的な方法は、皆さんいろいろおっしゃったけれども、これだけは一番言いたいことを言うわけですよ。そうしたら、それに対して反対は反対でいいと思うんです。ブレインストーミングでは言えなかったから。それから質問をしていいと思うんです。そして、そこで議論して1つ1つ固めていったらどうかと思います。

以上です。

○菊池 今のご提案は、前に澤田さんがおっしゃったように、得点投票制でやるという形でのやり方もありますので、今後皆さんで話し合っていたきたいと思います。

以上の長屋さんのお話、大事なポイントとしては、これの119ページの4つのポイントは外せないだろうということをおっしゃっていただきましたので、それも含めてまた今後検討して行っていただきたい。あと具体的なケースはいろいろほかの皆さんからもあろうかと思いますが、もうちょっとこういう形でのストーミングをしていきたいと思うのですが、糸井さん、どうぞ。

○糸井 先生のとまとめに対して全部が全部同調できるわけではありません。それは、先ほど長屋さんが言ったように、言った本人の中身のニュアンスとまとめられた方向性とが必ずしも一致していない部分があると思うんです。だけど、これは最初にブレインストーミングをやるときにテーマを決めなかったことと、やり方をきちっと説明しなかったことが、ほとんど半分以上の方がブレインストーミングの方法をよく知らないままやった結果だと思いますから、これを今から云々してもしようがないんですね。本来テーマを決めて具体的に何をどうするという形で書かなければ意味がないけれども、何をどうするというところまで書いていないものも入っていますから、それはそれでまとめざるを得ないというところで、これをそのまま受け入れるという形で進むよりしようがないと思うんです。

それはそれとして、先生に質問したいのは、4つ分類したんですけれども、検討中云々とかね。だけど、未検討というのがありませんが、白いところがいわゆる未検討という範疇のものとして解釈していいわけですね。

○菊池　そうですね。皆さんから新たに出てきて、これはまだ未検討の部分ということになります。

○糸井　それで、1つ、僕は異論があるのは、ほかの分科会でやるべきものがありますねというお話でしたけれども、それはほかの分科会でやると同時に、ほかの分科会のテーマではあるけれども、行政的に見てそのテーマがどうなのか、あるいは財政論から見てこれはどうなのかという議論が必要なためにここに出されているというものも当然あるので、その辺はやっぱりほかの部署に回すというだけでは済まされないと思うんです。

ただ、重要なのは、行・財政分科会というのはほかの分科会にかかわるものが多いわけですから、当然のことながら、きょうまとめられたものはたかだか4枚ぐらいのペーパーですから、ほかの分科会のメンバーの皆さんにぜひ配付していただいて、向こうの分科会でも検討の材料にさせていただく。必ずしもそれぞれの分科会の中の項目だけがほかの分科会にかかわる項目だけではないと思うんです。ほかの分科会だって関連する項目が結構出ているようですから、これはぜひほかの分科会にも回していただきたい。

同時に、ほかの分科会の中で行・財政分科会に関連するものも当然あると思うんです。だから、それは事務局の方で、サマリー、結論だけで結構ですから、行・財政分科会にプリントして回してほしいというのが1つの要望です。

それから、もう1つ、高木さんの言われた提案は、僕は全面的に大賛成で、最初の全体会でも申し上げたと思うんですけれども、分科会だけで完全なものにはならないと思うんです。やっぱり最終的には市全体として方向づけをしていかないといけないんですから、全体会は何回かに1回やる必要があると同時に、ほかの市民の人にも知らせる必要がありますから、特集号なんかは3回に1回とか4回に1回という形でまとめる必要があると僕は思っています。

○菊池　今の糸井さんのご意見を集約しますと、他の分科会との間での情報交換を緊密にやった方がよいだろう。とりあえずは私たちの、これでよいのかどうか、最終的な議論を経た上でですけれども、これを他の分科会に提示する。このことはよろしいでしょうか。

○長屋　それでは困るんですよ。僕は素直と言うとあれだけど、名古屋さんが第1回のときに言われたじゃないですか。我々の役割は何だと。これを読んでというか、説明があって、そして提案を出してくれと言われているんだから。したがって、高木さんがおっしゃることもわかるけれども、何を提案するか、これを出そうということがまだ決まっていなのに、その先を言ったって、うまくいくかもしれないけれども、僕はそんなにうまくい

くと思わない。

この20人の中でも、こうやって言いたいことでもウーッとやっている人もいるのに、この5倍の人が、まあ5倍集まらないかもしれないけれども、しかも全然違う分野の人が会ったって、どうやって意見を集約するんですか。そうじゃないですよ。我々この20人で、この分野でこれだけはやってほしいということをもとめるべきですよ。そうじゃないですか、皆さん。そのまとめ方として、さっき僕が言いましたけれども、こういう整理もできて頭に入ったから、そして、要は今までのこれを全部ほごにしちゃいかんですよ。これが基本ですよ。

それから、市役所のやり方というか、それはやっぱり、そういうふうに言ってくれと言われたら、それに沿うのが僕は基本だと思いますよ。そして、そんなに時間ないですよ。また、きょうだって、何で日曜にやったのか。お忙しいからこういうふうになったんでしょう。また1月にどうかこうとあって、そんなに簡単に日程なんか組めませんよ、忙しいんだから。

だから、時間は限られたものとして、目的はわかったんだから、それに対して忌憚なく、とにかく我々の提案を具体的に決定するのが、僕は第1順位だと思います。次は、またそれができてから考えればいい。

○菊池 ほかの方どうぞ。酒井さん。

○酒井 遅れてきて済みませんでした。

さっき長屋さんがおっしゃった中で、私もこの「持続可能な」という基本構想のここが、生活していく上で一番重要だと思います。あと、高木さんのものも、遅れてきて、ざっと書面だけ読ませていただいたんですけども、危惧されていることは、私も、本当に単純にガス抜きで、ちょっときつい言葉になりますけれども、武蔵野市が、市民が参加してこういうふうに会をやったということ自分たちの中でもし自画自賛しているのであればそれは大間違いです。

あと分野別に分かれていて、その間でどういう意見が交わされたというそれぞれの情報が入らないでこうやってやっていることは、私の中では市民をばかにしているのかなという気持ちも若干あります。

その意味において、今、糸井さんがおっしゃったように、皆さんが出していないけれども、私たちは自分たちがやっているこの情報を積極的にほかの分野の人に示して、行・財政分野ではこういうことをやっていますよということを行うことは、私はとても意味があ

と思います。ただ、全体会議をするということにおいては、やはりこういう形での会議に慣れていない方もたくさんいらっしゃるので、それは本当に混乱を来すだけであって、私は無意味だと思っています。

だから、やはり糸井さんがおっしゃるように、自分たちがやったことをある程度、行・財政分野ではこういうことをしていますよということをほかの分野の方に情報として提供して、あちらからも積極的に、それは市民ベースで情報を積極的にいただくということは大賛成です。

あと、長屋さん、ちょっと走り過ぎだと。私もすごく早く何とか形にしたいという気持ちは心の中にあるんですけども、せっかくの機会ですから、忌憚のない意見を皆さんが出せるような雰囲気……。

○長屋 走り過ぎというのもね、言い過ぎだよ。なぜかというと、先生がおっしゃったじゃないですか。きょうは非常に重要な日ですよ。そして、前回言われたんですよ。次回にある程度絞りこもうとおっしゃったから、そのためにはこれだけのものをどういうふうにしたらいいか考えてきたわけですよ。それで、意見は聞かないと言っているわけじゃないので、皆さんそれぞれ、これだけはあるでしょう。それをやって、皆さんそれぞれ質問したらいいんですよ。

そして、その中で質問して、「そうだったの。それじゃ、やめるわ」とか「じゃ、これをみんなでやろう」とか、そうやって決めるのが1つの方法ではないですかということと、それから、民主主義とか何とか言うけどね、ビラを配ったって、読む人は読むし、読まない人は読みませんよ。今の状態というのは全部、意志というか関心のある人はインターネットに全部出ているんだから、それを読めばいいじゃない。だから、インターネットに早く出すということにすれば、お互いに全部わかりますよ。ご存じでしょう。各分野の……。

○酒井 インターネットの機械を使える人はそれで見て、あとさっきのムーバスの話もそうだけど……。

○長屋 だけど、こういうことを言っちゃ悪いけど、関心はそんなに、我々が思っているほど、選挙の投票率を見たってそうだけど、そんなものじゃないですよ。本当に自分の身近なことしか関心ないですよ。ですから、もしやるとしたらアンケートとか、この間おっしゃられたああいうものを、もう少し緻密なやつをやるとか、そういうことの方が実効性があるので、余り考える必要はないと思いますよ。

○菊池 今のご意見、酒井さんも情報交換には大いに賛成だということで、先ほども私お

伺いたんですけれども、こちらの意見というか情報を他の分科会にも伝える、他からももらいましょう、これで異論ないかと思うんですが、どうでしょう。

〔「はい」「異論ないです」と呼ぶ者あり〕

○菊池 いろいろ方法はありますけれども、それはそういうことで積極的に行いましょう。

それでは、そのほか、さっき手を挙げていた方、どなたかいらっしゃいましたね。小島さん。

○小島 私は、今のこの会はほとんど我々自身の勉強会の過程だったと思います。我々ができることというものは、決してそんなにおごって言えることじゃないですし、やっぱり市民らしさで、我々は一体何を優先的にこの市政の中で大事なことをやっていくべきかという市民の声で、ブレインストーミングを今までやってきたんだろうと思うんです。

私はいつも見返しているんですけれども、「行財政分野市民会議 資料」という3ページ。いっぱい資料があるんですが、このたった3ページがわかりやすいんです。ことしの10月23日、非常に近い、この会議のための資料、箇条書きですね。これを見て、考えて考えて考えてきているわけですが、結局、我々がブレインストーミングをやったプロセスはあるんですが、この中の何をみんなそれぞれ、本当に持続的な社会をつくるために、あるいは市民生活が大事だという観点、無駄をなくすという観点、弱い者を助けるという観点、そういういろんな見方で、どれが大事かという取捨選択をもうそろそろやっていいんじゃないかということが、長屋さんにしても、高木さんにしても、皆さんそういう頭がどこかにあるからだと私は思います。私は最初から、議論の順番というものは、ブレインストーミングはいいんですが、永遠に続くことはできませんので、やっぱりここらへんで、簡単にいいますと取捨選択をすべきではないかと思います。

○菊池 ほかの皆さん、もっと具体的なお提案でも何でも、どんどんしていただいた方がよろしいので。三上さん、よろしくをお願いします。

○三上 ほかの分科会で、テーマごとに5～6人のチームに分かれて何かのテーマを深く論じていることを伺っているんですが、ここではそういうことをすることはないんでしょうか。

○菊池 これは皆さんのお提案で出していただいたらいいんじゃないでしょうか。

○三上 どうも範囲が広過ぎて、どこからとっつけばいいかわからない状態になっているんじゃないかと、私にはそう思えますので、机を2つ分ぐらいくっつけて、5～6人で話せば、その方がより具体的な提案が出せるんじゃないかと思うんですけれども。分科会の

分科会になって、そういうのは不愉快だという方もいらっしゃるかと思うのですが。（「テーマ分けが難しい」と呼ぶ者あり）

○小島 それは取捨選択をしてからの話です。

○菊池 澤田さん、どうぞ。

○澤田 私も基本的に小島さんと同じような考え方なんですけど、取捨選択というか、切り捨てができないんですね。皆さんの書いたものはそのまま、他人の意見を切るというのは、それは神じゃなきゃできないので、人間が人間の意見、まあそんなことはどうでもいいんですけれども。でも、やはりどこかで切り捨てなきゃならないと思うんです。今言ったように、グループに分かれてやるというのも1つの案でしょうけれども、前から皆さん出ている、もともとは、小島さんが、人間1人3つですよと社員の方にもおっしゃっていた。そのとおりだと思うんですよ。やっぱり「おれの意見50聞け。おまえの意見は聞かない」というのはだめでしょう。数で制限するというのもおかしいんですが、まとめていかなきゃならないという使命がある以上、数で投票しかないと思うんです。

先生がまとめられたやつは、専門家のあれですから非の打ちどころがないので、私はあれなんですけれども、これでまとめる、投票をやるということも1つだと思うんです。一方、自分の出した原案に対しての投票が必要だと思うんです。先生が書かれたやつはかなりまとまっちゃっているんで、おれは本当はこれが言いたいんだということが表現できない可能性がある。なので、二本立てで、先生のまとめたやつは本当にスタンダードといえますかオーソドックスですから、それでまずどこに集まるかというのと、もう1つ、個別に集めてどこに集まるかというのを2つ見て、それで全体の意見が大体どの方向を向いているのかということを見るのがまず最初ですよ。それで大体まとまってくるというか、その後にもう一回、激しい議論、ブレインストーミングでもグループごとでも何でもいいですけども、1回整理した後でもう一度突っ込むという形でいけば。

とりあえず、高木さんがおっしゃったようなことは私も必要だと思う。理想としては必要なんですけれども、やはり我々は自分たちのことをまずやってからというところがあるのかなということで、とりあえず自分たちの意見がどうだというところがまとまるのがまず大優先。その後に、今から設定してもいいんでしょうけれども、将来的に全体で、我々の意見はこうでしたというものを持っていけるような段階でやったらいいんじゃないかと思います。

○菊池 西村さん、どうぞ。

○西村 2つあります。

1つは、この前も出ていましたけれども、私にはまだよくわからない項目も幾つかあるんです。その辺をもうちょっとわかり合ってから点数を入れるようなことにいく必要があると思います。

もう1つは、改めてこうして整理していただいていたんですけども、3、4、5、6ですか、行・財政からはみ出ていく、しかし、その中に入っているというものがかなりたくさんありますね。その辺で言って、これがほかの分科会でどういう話になっているかというのは、一部しかわからないと思うんですけども、私はとても知りたいです。できれば1回は全体会的なもの、もちろん資料でいただくことも必要ですけども、そこであるいは質問をして私の疑問点を答えてもらうことも含めて、それはまとまる前にしたいなと私は思っています。

例えば何がわからないかといいますと、この前ちょっと、どこへどう出したらいいのかわからないので向こうの方へメールを出したんですが、「市民政策室」というのがよくわかりませんでした。それから、ここには落ちているように思うんですが、「コミセンの高度活用化」とどなたかが出していたのが……。

○菊池 抜けていますか。

○西村 はい。そのことは、1の「基本理念」の下から5番目の「町の住民自治組織仕組みの再検討」ということと結びついてくるというか、コミセンというのは今この町でまちづくりの基本単位なので、その辺を皆様がどう考えていらっしゃるか。どういうお考えで「コミセン」という言葉を出されたかも含めて、かなり大事なことだと私は思っているので、もう少し共通理解を持ちたいと思っています。

ほかにもありますが、とりあえずはそれくらい。

○菊池 今のコミセンの話、確かに「コミセン」という言葉が出ていましたね。私はこれ漏らしちゃっていますかね。

○西村 「コミセンの高度活用化」という言葉で、澤田さんの方に出ていました。

○菊池 抜けていたらごめんなさい。意図的に抜いたんじゃないと思います。うっかりミスでございます。失礼いたしました。

今の西村さん、各提案でわからない、これはどうぞ、お互い遠慮なくどんどん質問されて、これはどういう意味ですかということを確認して行ってよろしいかと思うんですけども、ほかの、まだご発言ない皆さん、どうぞ積極的な発言をお願いしたいと思います。

じゃ、発言を促す意味で、私、僭越ながら、これはどうなのかな、皆さんどう考えているのかなということで、ちょっとご意見を申し上げさせていただきますと、今までのご議論を伺ってしまして、それから、私、武蔵野市へ足を運んでいますので、それとなく日ごろ感じていることは、やはり人口密集地域だと言わざるを得ないと思います。そうした中、この前からの議論で、学校の建てかえが、これはどこの自治体でもそうなんですけれども、どんどん出てきている。そうしたときに、広域避難場所としての位置づけを皆さんどうお考えかなと。防災ということで、藤本さんが非常に興味を持っていらっしゃって、その延長だと思うんですけれども、学校の建てかえ、公共施設の建てかえというときに、やはりそうした位置づけから、教育機関としての学校の構造のあり方と一緒に、広域避難場所あるいはそういった緊急的な食糧を保管する場所を同時に設けておくとか、それから給食室、これを多目的に災害の場合でも対応できるような形に設計しておくとか、今、自治体はいろいろ工夫しています。その辺の対応は、皆さんの方から、どのようにお考えになっているのか伺いたい。

○三上 質問なんですけれども、そういうふうに学校を多目的に使うことは何か法律で禁じられているんじゃないですか。

○菊池 いや、そんなことはありません。

○三上 何かすごく狭められていて、ほかのことに使えないように。

○菊池 確かに、規制はいろいろある。規制というか、国が補助金を出す。その補助金を出すためには規格はこうでなければいけないとかいろいろあるんです。だけど、今は国もかなり柔軟になって多目的なやり方ができるようになっています。ですから、それは市民の皆さんにも勉強していただく必要があるし、もしそういう情報が欲しいということであれば、ついではですから、今のうちに市の方に情報提供をお願いしておくとうろしいかと思っています。

○三上 今校庭を使いたいとしても、それはできないとか……。

○菊池 そんなことないです。

○三上 ないんですか。どういうふうな経路で。

○菊池 例えば、東京都が校庭の芝生化をやろうとしていますが、これは26市には関係ないんでしょうかね。（「議会で出されているところもあります」と呼ぶ者あり）26市が別途やることになるんでしょうかね。

○宮本 いや、武蔵野市は何か予算が延期になるとか。

○松村 陳情とかは出されていますね。

○小美濃 校庭に食糧倉庫なんか随分、本宿小学校なんかできていますよね。

○松村 学校に防災倉庫もあるし、備品もあります。

○菊池 恐らく武蔵野市ですから、既にその辺は抜かりなくやっていると思いますけど、それが十分なのかどうかという検討でしょうね。

○宮本 やったとは言うんですけれども、量的なことは言わない。ただ0か1で、やったらやりました。どの程度ですか。A、B、Cランク、そういう表示はしてくれないんです。

○大橋 僭越ながら、それは行・財政の分野のテーマでしょうか。時間がもったいないように感じるんですが。ちょっと違うような気もしております。

○菊池 いえいえ、当然関係してきます。

○藤本 それは関係があるんです。

それから、今ちょっと話があれだったんですけれども、済みません。学校について、もう1つ言いますと、今、安全の問題の1つとしてシェルターの問題も出てきているんです。核攻撃に対するシェルター。ですから、そういうこともあるいは考えなきゃいけないかもしれない。そういったことが結局、財政に、それを私は非常に心配しているわけです。

特に、武蔵野市の建てかえの問題というのは、ほとんどの小学校が恐らく10年後ぐらいには建てかえなきゃいけなくなる。今ちょっと表をつくっていますけれども。それから、その前に地震対策の弱いやつがたくさんあるわけです。つまり、54年前の建物が非常に多いから。そうすると、今の例の震度幾つというやつがあると壊れちゃうおそれがある。だから、どんどん補強していかなきゃいけない。これが結構お金がかかる。これも時間どおりやっていかないと、いつ来るかわからないわけですから、そういう財政の問題がある。そういったことをいろいろ考えて。

それから、もう1つ、ちょっと話が飛んで恐縮なんですけれども、武蔵野プレイスというのがありますね。あれがどうなのかなというのを非常に心配しているわけです。何を心配しているかという、1つは、機能的に十分なものなのか。望まれる機能が本当に十分入っているのか。例えば、簡単に言うと、図書館が吉祥寺図書館程度のレベルで、そのほかに音楽の学習室があるというような話で終わっちゃっている。それにしちゃ、86億、いや56億かもしれませんが、やけに大きいという問題が非常にある。

一方、この間、保育園を駅のそばにつくらなきゃいかんとか、あそこを別の環境に合ったものにしなきゃいけないとか、いろんなニーズも実は出てきているわけですね。その二

ーズというのは、逆に考えてみると、今の武蔵野プレイスの設計でいいのか。今は設計段階ですから、9000万しか使っていませんから、とめることはできる。やるとすれば今なんです。今しかない。これから実際に工事に入ったら途中でとめるわけにいかない。だから、やるなら今だ。そういう具体的な問題が幾つかあるわけです。

ちょっと話が戻りますけれども、例えば武蔵野プレイスについても、シェルターを含めた安全性の問題あるいは地震のときの備蓄の問題とか、そういったものも含めて考えなきゃいけないかもしれない。

○長屋 財政の問題もね。

○藤本 財政の問題も、そのとおりです。ですから、非常に関連が輻輳しておるんです。こいつを1つ1つやっていかないと、アイデアだけでパンパンパンとやると非常に物騒だというふうに私は思っております。特に、私は財政の方が心配ではない、こういう立場ですから。

○菊池 ついでですから、今の学校、公共施設の建てかえ等をめぐって、地震対策等々で市当局として何かコメントございますか。いいですか。もしあれば。

○名古屋財政課長 まず、学校施設についての規制というようなお話があったんですが、現在、教育の時間以外は一般の市民の方、団体にお貸しをするようにして、校庭、体育館等を活用しています。学校施設自体も、例えば千川小学校だとか、体育館も四中だとか二中というのは、地域に開放することを前提に設計しております。

それから、耐震につきましても、従来の計画ですと今年度ですべて小中学校の校舎についての耐震補強工事は完了なんですけど、実は新しい基準の前に耐震補強工事を既に行ったところを再度新しい基準に照らして点検したところ、またこれについても耐震が必要などころも出てまいりましたので、早急に計画を立てて補強を実施してまいります。

以上です。

○菊池 確かに、耐震は何度か改正されていて、旧基準ではクリアしているけれども、新基準ではだめだというような部分もありますので、対応が難しいところですね。

といったところでのご議論をいただいたので、ほかに、酒井さん。

○酒井 さっき先生がおっしゃった、学校の備蓄というか学校をそういう避難場所で使うことに関してということなんですけれども、多分、糸井さんとか西村さん、コミセン関係の人とかはあちこちいろいろと、私もボラセンの関係で、防災は今いろいろ、大野田はもちろん見てきましたし、町の中をいろいろ見せていただいて、確かに備蓄されているんで

す。ただし、それはその地域で本当に家が倒壊してしまって家に住めない人をきちんと網羅できるだけあるかという点、そうではないので、はっきり言って、備蓄はあるけれども、家が全壊したとしても何とか自分で生き延びるすべはしなくてはいけない状況だというのは、ボラセンでいろいろあちこちしたり、市の防災課の方に聞いたりして、多分そういう状況だと思います。だから、学校に備蓄がある、学校に行けば何とかかなるという認識では無理なんです。

もうちょっと言うと、全部の家が壊れるわけではないですよ。全員が家が壊れるわけではないから全員が避難するわけではない。むしろ、それぞれの家での備蓄ということに対して、もうちょっと自分たちがこうしなくちゃいけないというフォーメーションの方が重要で、だからこそ学校が、大野田のようにとてつもないお金をかけて作り直す必要性を私は感じないということで、この間、公共の小学校、全部の学校にあんなにお金をかけることがあるんですかということを知りたかったということだったんです。だから、やっぱり財政に関係してくると思うんです。

○松村 進め方なんですけれども、この基本構想というのは議会で承認をされているもので、行・財政のところは基本構想と長期計画と大して変わらない、量も変わらないんですね。当然これに基づいて、市の方も改革を進める基本方針というのを出しているんですけれども、市民会議としては、今のブレーストーミングでやったような要望事項を羅列した形で委員会に出すのか、それとも1つの方向性を出すのかということがあると思うんです。今みたいにまとめていくと、この基本方針の方が具体的なことが書いてあって、我々の話しているレベルよりはこっちを読んだ方が、恐らく市民的にもよくわかるわけで、一体何やっているんだということになっちゃうんですよね。

さっき先生が言われたみたいに、特徴があるとかインパクトがある、ここはこうしたいんだということや、あるいは全員一致というわけにはいかないかもしれないけれども、方向性としてこういう方向があるんだというのを出さないと、それは市民的に、僕らがやって出してもこれ以上のものはできないという形になっちゃうんじゃないかなという怖さがあるんです。

もう半分来てしまったわけですから、この半分でどういうふうにするのかというのを決めないと、ここの取り組み事項だけの羅列の方が、こっちよりもこっちの方がいいなと思ってしまったのでは、我々は何をやっているんだかわからないので、そこをもう少し進め方をきちんとしないと、それこそガス抜きというよりも、我々の方が勉強したらそれで

しまいだということになってしまうので、特にここに書かれている市民パートナーシップとか、ここに出てくる項目のものにすら議論はまだされていないわけで、そこら辺、市民ニーズとか情報とか財政とかというところについて、そういうテーマで少し議論をしないと、ちょっと空っぽになっているんじゃないかなという気がしますので、ちょっと修正をしてほしいなと思います。

○菊池 どうぞご議論出してください。皆さんの方がむしろ焦っているような感じなんですけれども、私は一番大事な局面だと思っていますので、皆さんから意見が出なければ話になりません。ですから、時間を気にせずどんどん、こんなことを言うと市の方にしかられちゃいますけれども、どこかでまとめなきゃいけないんですが、途中3分の2まではもたもたするのが普通なんです。そこを乗り越しちゃうと、あとはスーッと行くんです。だから、私は余り心配していないんですけどね。

○糸井 そうは言っても、やっぱり全体のスケジュールがもう決まっているんだし、3月には出さないといけないんですから、大枠のステップというのは僕は決めるべきだと思いますね。ただ、その決め方で、これと現状の計画の中身は、現状の方が具体性があるというお話ですけども、これはやり方から言えば、ほんの取っかかりですからね。本来ブレーンストーミングというのは、これからまた2段階、3段階というまとめのステップがあるわけで、そうすれば、例えば僕は前に、「特区制度」というのを言ったんですけども、それは先生が「経済特区」という言い方で書かれましたね。だけど、僕は、そのときの思惑は経済特区だけではなくて、今、防災のことをおっしゃられましたけれども、安心・安全特区というのを実は市に提案したことがあるんです。それはもう全然鼻もひっかけられないで却下されましたけどね。

いわゆるこういう形で特区というのが出れば、経済特区、安全特区、教育特区、文化特区というような形でどんどん出されてまとめられていくものなので、これが具体性があるとかないとかという議論とは別に、これそのものがもっと進展していけば、より具体的になりますし、その方法は、先生が、因果関係で、手段、方法、手段、方法という形で落としていけば、必然的に具体化されるわけですから、僕はその具体的なステップが明確に共通認識になれば進んでいくと思うんです。だから、そういうことを議論する時期じゃないかとは思いますがね。

○小美濃 私、高木さんがおっしゃったように、ほかの分科会の話もある程度こっちの方の耳の中に入れながら考えてみて、もしかするともうちょっと足さなきゃいけない部分も

出てくるかもしれないし。それから、私は意見というのは余り集約しないでもいいんじゃないかなというふうに、そういう提言の仕方もあるんじゃないかと思っているんですけども、いろんな意見が出てきて、これが市民全体の意見ではありませんけれども、とにかく100人、ある程度意識の高い方が考えられて、これだけの問題が一応出てきているわけですから、こういう問題が出ていますよというのをそのまま提言してもいいんじゃないかと私は思っているんですけども。

○菊池 無理に集約しなくてもよいと。

○小美濃 無理にしなくてもいいんじゃないかなというふうにちょっと考えておりますが。

○小島 私は先ほどもちょっと申し上げましたが、これ（「第4回行財政分野市民会議資料」）は菊池先生が書かれた資料ですね。

○菊池 はい、そうです。

○小島 この最後に書かれているのに非常に興味を持っているんですが、「現在地方自治体が直面する行財政改革の方向」ということで、菊池先生が、最後に4行ですが、これは非常に市民らしいものをとらえる意味の表題として、ある意味では、欲を言ったらいっぱいありますけれども、私はわかりやすくいいと思ったのが、「行財政の方向=>都市経営、自治体経営へシフト、（経営感覚の導入）」。（1）「市場に委ねる」、（2）「市民に委ねる」、この2つのテーマだけでも私は非常に素晴らしいと思います。

市場にゆだねるのが一体何があるかということをも市民の目で考えて、市場にゆだねるということは「アウトソーシング（外部委託）」とここに書いてありますね。外部委託は、今もあるでしょうけれども、それもどうであるかということを見ることも非常に大事だと思いますし、市民にゆだねるといのは、我々が市民の政策立案にどれだけ参加できるだろうか、一体どういうふうに参加できるかということをも、みんな、自分たちも責任を持って一生懸命考えて提案をするという、この2つは、私は総論としては非常にいいテーマだと。いろんなことを言ったら切りがないぐらいテーマはあるんですが、先生がたまたま書いたこの2つは、見ていて、我々がわかりやすい1つのテーマではないかと思います。

○澤田 私は、実は、会議の最初から今に至るまで、言いたいことは1つなんです。それは何かというと、子どもと老人、それと自転車。自転車はまだ言っていなかったですけども、子どもと老人をまず軸に、そこに金使えばいいじゃないか、そこにシフトすればいいじゃないか。例えば美術館とか、私、1度も訪れたことはないんです。私はオランダの美術館に行ったことはあるけれども、武蔵野市の美術館に行ったことはない。そんなもの

を何億円使っているのか知りませんが、絵を買うということより前にもっとやるべきことがあるんじゃないの。

吉祥寺の駅なんですけれども、エレベーターがないんですね。私、子どもがいるので、いつもぐるっと回って大変なんですよ、あそこ。すごい地方の何とか線という私鉄の端の方でもエレベーターがあったりするんです。そのときに、吉祥寺って何万人使っているんだろう。20万人ぐらいですか、わからないですけども、そこにエレベーターがないというのは、これは根本的に何かおかしいんじゃないかなと。

○小島　すごい遅れていますね。

○澤田　そうですね。それはJRの問題なのか市の問題なのかわからないけれども、市民が要求すれば何とか動きになると思うんです。そういうところが、多分、市民はそうは思っていないんだけど、アンケートをとっても、例えば美術館はどこに入るんですかね。そういうところがよくわからない。いろんなところを、市報とか見ていくと、このお金が市が出さなきゃいけないの、やりたきゃ自分で金出せばいいじゃないかというようなところがあるんです。

例えば芸術の問題にしても、シアターにしても、あれは意味がわからない。私は近所なんですけれども、前を通ると気持ちいいのでいつも前を通るんですけども、それ以外に行ったことないんです。演劇が見たければ、僕、東中野、下北沢に行きますからね。出したきゃ出せばいい。何であんなものに、それは武蔵野市民が特別に芸術を愛する、特に演劇を愛する人たちの集まりだったらそうでしょうけれども、そうじゃない普通の市民ですよ。

ということで、何で子どもとか老人とかそういう人たちをほったらかしてというか、通常のレベル以上はいつているんでしょうけれども、とりあえず財政レベルに見合うだけのことをやらずに、何でそういうところにお金を使うのか、私は全くわからない。というか、全く理解できない。

防災センターも理解できないんですけども、何でこんなものを建てなきゃならないのか。資料をいろいろ見るんですけども、何を読んでも意味がわからない。SARSがどうのこうのと書いてありますけれども、そんなのは国がやることでしょう。何で武蔵野市がSARSの対策どうのこうので、あそこにあれができたことによって何がどうなるのかが見えてこないんです。そういうところで何となく、根本的に何かおかしいんじゃないか。市民の本当の最大公約数のニーズというものを飛び越して、だれかが別なことを考えて別

のことをやっちゃっているんじゃないかなというところがある。

また戻りますけれども、私は1つしか言いたくない。今までずっとそうなんです。もう少し、子どもとか老人とか、本当に助けが必要な人たちに対してやればいい。私なんか、別に自分で稼ぐし、自分であれしますからね。美術館を見たければほかに行く。そういう人たちは多いと思うんです。だから、そういう人たちではなくて、本当に必要な人たちがいるんだ。その人たちにちゃんと行くようにやればいいんじゃないの。そういうことをどんどんやっていけば、「武蔵野市ってすごい」ということになってきますよ。当然アイデンティティーがついてきますよね。みんなが「すごい」と。

今、芦屋市の例が出ましたけれども、ほかにも、三鷹市は地下に駐輪場をつくりましたね。あと世田谷区はすごいですね。駅前に子どもの総合施設みたいなのをつくって、それを各駅に広げるとやっていますね。なかなかすごい先進的なことをやっている。武蔵野市は取り残されていますね。お金だけある、統計的にはいい、だけど、何かインパクトに欠ける。このまま行ったらどんどん取り残されていきます。ですから、もうちょっと市民の声をもう一度聞き直して、私は何度も同じことしか言えませんが、子どもと老人という困った人たち、必要としている人たちに厚く、要らないところは全部削ればいい、統廃合すればいいでしょう。芸術関係が幾つも幾つもありますね。シアターができましたけど、数えると5つぐらいあるんですか、よくわかりませんが、市民文化芸術センターとか何とかというのが、あんなものはあんなに必要なんでしょうかね。

それと、もう1つ、市政センター、あれもあんな巨大な施設が必要なんですかね。私、コンビニぐらいのスペースでいいと思うんです。小田原市というところは、私の女房の実家でよく行くんですけども、そこは、このスペースよりも小さいぐらい、おばちゃん3人で大体同じような機能をやっていますね。ああいうのを見ると、使わなくてもいいところにお金を使っているなというのがありますので、その辺、多分、私だけじゃないと思うんです。皆さんもそういう思いがある。そういうところを、私は形にして1つにまとめて、それをバーンとぶつけてやる。

○小島 立案しましょう。

○澤田 そうですね。

○菊池 澤田さんのおっしゃった子ども、高齢者を大事にする社会ということ、何か具体的な形、こういうものをつくったらいいだろうとか。

○澤田 まず最初は予算配分だと思います。とにかく予算配分で、何だかんだ言ってお金

で動きますから、私は民間に働いているので大体わかるんですけども、お金ですよ。最初にお金をドンドンと割り振ればそれなりに、あとは市民の中でニーズを高めていけば、世田谷区を見習いましょうということになるかもしれないし、いろんな形でいろんなあれが出てくる。

○菊池 予算配分の問題なんですけれども、予算の決まり方というのは、ある具体的な施策があって、これをつくるのには幾らかかる、それを議会で認めてほしい、こういうことになるんですよ。だから、何に使うかわからないけれども、とにかく予算を増やせばいいということじゃだめなんです。

○澤田 市民の考え方として、こういうことがあるということをもみんなにアピールして、そうすればだんだんそれが広がっていく。

○菊池 それじゃだめなんです。具体的な形で出さないと。（「それはこれからつくればいい」と呼ぶ者あり）そうそう。これをここで出すか、それはともかくね。

それから、今おっしゃったとおりで、例えば私も武蔵野市の高齢者と子育てにそれぞれどのくらいお金が使われているか、ざっと計算してもらったことがあるんです。高齢者は65歳以上の人口で、1人頭幾らでざっと計算してもらった数字があります。それから、子どもについては0歳から12歳以下の頭数で実際に使っている経費を割ってもらったんです。そうすると、高齢者の方が高いんです。子育てに対して使っているお金はまだ少ないんです。ですから、この辺が今後、施策的にどうなっていくのか、私も注目しているんですけど、そういうところがありますのでね。

今、予算が増えれば自動的にとおっしゃるけれども、予算の決まり方はそうじゃないんですよ。こうこうこういう施策をするのにこれだけかかります、だから予算を認めてほしい、こういうことで決まりますのでね。とにかく市民の皆さんも、大変崇高なお考えで、これを具体的に提案しないとつながらないんですよ。それはどこかで決めてもらえばいいというんだったらそれでいいですけども、それじゃ何か、この委員会としてそれこそインパクトないんじゃないんですか。

○糸井 それは済んでいることでしょう。

○菊池 ちょっと待ってください。じゃ、酒井さん、どうぞ。

○酒井 今の澤田さんのにすごい賛成で、ちょっと補強になるのかもしれないけれども、ただ、今おっしゃった子どもと高齢者にといい言い方だと、個人的には若干あれなんです。今まで私も高齢者にとずっと思っていたんですけども、考えれば、小さい子どもが使える

るものは高齢者も使いやすかったり、あと乳母車を持っている親子さんにとって便利なものは、歩くのが大変な高齢者とその家族にもとても重要なので、今、高齢者と子どもというふうに2つにすると、それぞれでまた意見が出てきちゃったりするので、私はこの議論の中で、「そうか、私は年寄り中心に考えていたけど、子どもに便利な市は、もしかしたら年寄りも住みやすいんだな」と、ここで皆さんの意見を聞いていてだんだん思っているのがあるんです。

それで、今、澤田さんがおっしゃったことはとても重要だと思うし、私も、最初から人を育てるということに、それは一貫して言いたいことなんですけれども、ただそういう抽象的なこと、哲学的なことには予算がついてこないもので、限りなく具体的なものに、そして限りなく幾らかかるということも提案しないと、それは実現不可能だということも強くわかるので、私は、もしやるのであれば、澤田さんのおっしゃった子どもと年寄りだったら、子どもにシフトするという形でリニューアルする方にすごく夢があって賛成です。という意見です。

○糸井 今ごろそういうことを言っても、そういうことの背景がこれに出てきているんだから。

○菊池 それはそうなんですけどね。糸井さん、さっきおっしゃったように、これもあるけれども、もっとまた深い議論が出てくるかもしれないということですから、それはしようがないんじゃないでしょうか。

それで、今の澤田さんのご意見に関して、子育てと高齢者のデイサービスと合わせて、富山方式のデイサービスは、皆さんご存じでしょうか。

○酒井 知っています。

○菊池 知っていますね。

○酒井 もちろんです。

○菊池 これは1カ所で、今までお年寄りはお年寄りのデイサービス、子どもは子どものデイサービスは別々だった。これは国の役所が別ですから、縦割りでそういう影響を受けているんですが、富山が国に強力に頼み込んで、一緒にできるシステムをつくり上げました。お年寄りと子どもと障害者も全部含めたデイサービスです。これが今全国的に急速に広がっています。こんな形で柔軟に、別に国をおだて上げるつもりはないんですけれども、国も柔軟になっています。だから、市民のレベルでの発想が国を動かすようになっていまして、福祉については武蔵野方式で昔から有名でしたけれども、ここへ来て何か武

蔵野市民の皆さんがもっと新しいものを考えたら、どんどん提案されたらいいと、そんなことを思います。

ごめんなさい。さっき手を上げた方、藤本さん、どうぞ。

○藤本 今、澤田さんがおっしゃったことで、予算をつけていけばいいというお話があったんですが、それは可能だと思うんです。それはどういう意味かということ、私は基本的に今、市でやっていることは非常にいいレベルにある。これを減らすことはもちろん見直さなきゃいけない。いわゆるサンセット方式で、もう使命の終わった事業は落としていかなきゃいけないけれども、基本的には現状を維持し、それプラスアルファを乗っけるときに、例えば子どもあるいは老人にお金をつけていけばいいのではないか。だから、どういう名目でどういう事業としてお金をつけるかを考えればいい、そういう話だと思います。

○澤田 子ども何とかがって、分野がまた別にありますよね。ここは行・財政なので、そこはそちらの議論でと言われると困るので、財政というのはよくわからないけれども、財務省が予算編成権を持っていますよね。それと同じレベルで予算編成という意味で言えば、そここのところに重きを置く予算をとという市民としての提言とか、逆に言うと、統廃合を進めてむだなものはなくしていこう、余った分をそちらにつき込むという意味で、予算ということでした。

○西村 澤田さん、藤本さんの意見に基本的に賛成なんですけれども、澤田さんので言えば、私は高齢者と子どものほかに、やっぱり環境ということ、すごい抽象的な言い方なんですけれども、それを考えることで、子どもあるいは高齢者がこの町で幸せに暮らせるという意味では、環境ということをいつもベースに置く必要があると思っています。

今の高齢者施策が十分かというところを押さえた場合に、決して十分でない。ただ、みんなの話を聞いていると、高齢者から削ってでも子育てにシフトすべきだというふうに、この間聞こえちゃったので、ちょっとメールで書いたんですけどね。今の高齢者の施策というのは十分ではありません。それは私がボランティアとかいろいろやっていて身を持って感じています。だから、それはそれで今以上に力を入れていく必要がある。子育て支援は、もしかしたらそれ以上でもいいんですけれども、私も孫が3人いますから、物すごくわかります。子育て中の親の不安、危険さも含めて、それはすごくわかるんですが、そういったことを出すためには、今おっしゃったように、どこからか残ったときにそれに乗せていくという以上に、積極的に納税者として選択できるのではないかと。

余りわかりやすい例を言っちゃうとちょっとあれなんですけれども、例えばプレイスに

かけるお金から3分の1をといたようにできるじゃないか。あれは建設費だから、経常経費はまた別なんですけどね。そういったふうに、どこかを減らさなければ増やせない。その選択は私たちがするんだという意味では、やっぱり私たちが言えることだと思うんです。ただ、それをどういうふうに言うかというのは難しいけれども、言いたいと思います。言い方を教えてくださいとか。

○内山 前回休んだので言うことがちょっとおかしいのかもしれないんですけども、先ほどの高齢者や子どもの施策に視点をとというのは、本当にそのとおりだと私も思います。この行・財政分野で出たさまざまな私たちのアイデアを取捨選択とか、それを整理する必要はないとかというふうにも思いますし、ただ、それを眺めてみんなで公平に考えたときに、芯となるものが、今おっしゃっていたような、人に対して行・財政のお金を使うんだというその基本線さえみんなが共有していれば、それ以上、物とか、立派なものにしようとか、そういうことにお金をつぐんじゃなくて、人を育てる、人を大事にするために使うんだという視点さえ、20人が基本的に共有できれば、ある程度異論があっても、それはそれでそのままでもいいかなとちょっと思うんです。

高齢者の問題で、私は、都内に両親がいて、今、市内で子育て中ということですけども、市民感覚として申し上げれば、高齢者の施策については十二分に用意されていると私は思うんです。ただ、その連携とか新たな施策をプラスしたために、既存の施策との関連性とか再編がされずに、使いにくくなっている事柄とかがあると思うんです。それは、私が両親の介護とかに携わる中で、武蔵野の例を参考にしたいと思ったときに感じたことなので、介護保険制度以前の社会資源とそれ以降の社会資源、また、今度の改正介護保険法のもとで、これからやろうとしていることの展望というものが1本の道のみになって見えないということで、高齢者施策については、あるものを使いやすく、当事者参加で見直すということが必要だと思っていて、それは行・財政の分野にも非常に重要な視点だと思うんです。

ただ、一方で、子ども施策について言いますと、ほかの区にはある、ほかの市にはあるものがなぜないかということが、私は引っ越してきたときから不思議なことで、例えば児童館が他市との周辺地域に1館とか、それから、私は区部で育ちましたので、当たり前のようにファミリーサポート制度があったんですが、それをやっていなかったということがあります。今「子どもSOS」とか「テンミリオンあおば」とかやっていますけれども、そういう個別メニューを幾つも幾つも積み重ねることで何かができるかといえ、それは

できるものもあるかもしれないけれども、余分だったり、基本的なものがなかったりするわけなので、子ども施策については、もうちょっと屋台骨をどうするのかということを考え直さなきゃいけないなと思っていて、そういう意味で、澤田さんがおっしゃった子どもに視点をというのは、今の次期調整計画で私たちが見直す視点は、人口減少社会を武蔵野市がどう切り開いていくのかという、その先進モデルをつくれるかつくれないかだなというふうに思うわけなんです。

今、2007年問題といって、団塊世代の大量退職とか言っていますけれども、多少ですが、親の介護をやる中で思ったのは、自分が介護される世代になったときに、若い人は一体いるんだろうかということが不安でした。子育ては介護世代を育てるためではないんですけども、目先の介護の問題というのが10年、20年、50年後に、あのときこうしておけばこんなことにならなかったんじゃないかというふうに後悔はしたくないので、いろいろな意味で社会を豊かにする、人を育てるということにみんなの気持ちが1つになれば、今回の調整計画というものはもっと豊かな提言になるんじゃないかなと思っています。

以上です。

○高木 糸井さんみたいに町のことを何でも知っている人と、澤田さんや酒井さんみたいに、今回、武蔵野市デビューをした人で、いろんな意味での状況認識のレベルに違いがあることは間違いないんですけども、例えば、言い方は変だけど、僕の結論に引っ張るためにこういうことを言っているわけじゃないけれども、子どもの問題とか高齢者の問題は、今それぞれ分科会で一生懸命議論しているんですよ。それはそこに関心があり、そこでそれまでいろいろ経験を積んできた人が議論しているので、問題点が非常に整理されてきていてという話が出ている。

例えば、子ども・教育の分野で聞いた話で言うと、武蔵野市の小学校、中学校の不登校というのは、東京都の平均よりも高いんですって。そんなことはみんな知らなかったけれども、どうもそうらしいという話になっていて、武蔵野市の公教育が全然問題ないなんて言えないじゃないかという議論がされているとか、高齢者の分科会では、地域サポートシステム、何か困ったお年寄りが出たときに、絶対泣かせないという行政と市民のネットワークシステムをどうつくるのかということが高齢者の課題になっているとか、都市基盤の議論で言うと、何で都市計画道路がいつも優先するんだ、人が歩いて安全な道というものが一番大事なんじゃないか。要するに、道路づくりの政策の理念そのものを転換すべきじゃないかとか、そういう議論がそれぞれの分科会でやられているというんです。

ただ、それぞれのところでいつもひっかかっているのは、例えば、僕の女房が、給食検討委員会に行っているんですけれども、自校方式がいいのか、共同センター方式がいいのかという議論をしていて、自校方式の方がいいに決まっているけれども、共同センターに行ってきたら大変おいしかったので、財政のことを考えるとやっぱりこうしなきゃいかぬですかねという議論になった。「財政のことを考えると」と言うけれども、考えている材料を別に持っているわけじゃなくて、大変なんじゃないだろうかということで、みんなが配慮して控え目に、お金のことは言わないようにしよう、できれば節約してという、本当にどこまで節約しなきゃならぬのか、節約すべきは何なのかということについてきちんと我々が、ある意味ではみんなの期待を背負って、行・財政の分野で物を言わなきゃならぬ。政策的に転換するとするならば、何は削ってもいいものじゃないか、ここにもっとつけるべきじゃないかという議論ができるとすれば、我々の課題なのではないか。そのためにも、今それぞれの分科会がどういう議論をしていて、何を本当に市政に求めているのか。

おっしゃるように、例えば高齢者の分野にしても、子どもの分野にしても、人を介したサービスの問題だとか町の中のネットワークで言えば、やっぱりお金は要るんです。もっと手厚いサービスが欲しいとなれば、お金は要るに決まっている。だけど、藤本さんがいつも心配していらっしゃるように、本当にやっていけるのかということについて、何もしないでお金を余らせるというのは、先生がおっしゃるように、市の役割ではないわけだから、市はお金を儲けるためにやっているわけじゃないから、必要なお金を必要なところに届けるにはどうすればいいのかという議論をしているということで考えれば、やっぱりそれぞれの分科会が今どういう議論をして、何を求めているのかということ把握した上で、我々の提言というものがあつた方が合理的なんじゃないかというのが1つの提案の趣旨ではあるんです。

ただ、全体の議論として出てきたことで言うと、ブレインストーミングの中でも大体絞られてきていて、言ってみれば、我々は武蔵野市をどういう町にしたいのかということ、ある意味では市民の議論を通じて固めて、理念をきちんと打ち出す、そういう自治基本条例ですね。我々はこの町を通じてこういう町にしたいんだということをはっきりし、そのことについての市民のちゃんとした意見が通るような仕組みをつくるという自治基本条例を、僕は前倒しとかという議論よりは、本当に市民の、それこそ関心のない人も多いとおっしゃるわけだから、なぜ自治基本条例をつくれれば自分たちにとっていい町になるのかということがわかるような作業を、全市民ぐるみでどうやってやっていくのかということが

むしろ大事なので、前倒しで早くつくればいいというよりは、みんなを巻き込んで、市民がその議論に参加するという自治基本条例づくりが非常に大きな課題だというのが1つ。

財政の問題について言うと、これは名古屋課長なんかともっと議論しなきゃいかぬのかもしれないけれども、僕はやっぱり、物すごいむだ遣いをしたんだというふうに思っているんです。バブルの時期にというよりは、バブルから崩壊の時期に土地を物すごく買いあさって、ひどい目に遭って、それをようやくこの10年かかって返し終わって、一通り健全になりました。なぜ健全になったかといったら、それはみんなが税金を払ったからなんです。それは有効に使われなかった、無駄に使われたんだということをはっきりさせた上で、今後の見通しは何なのか。また無駄に使われないようにするにはどうすればいいのかという議論をした上で、本当に必要なところにお金が届くようにしようという財政についての意見をきちんと出すべきだ。

もう1つ、それは、さっきアウトソーシングとおっしゃっていたけれども、非効率な部分は効率化すればいいに決まっているわけですから、小島さんがおっしゃったように、何をアウトソーシングすべきなのかという議論をきちんと整理しないと、本当にしちゃんらぬところまでしてしまったために、市場効率だけで本当に人が育てられるかという議論についてはちゃんと目ききをして、何はアウトソーシングすべきだけれども、これはしちゃんらぬところなんだ、もっと大事にするんだ、こういう議論もきちんと出すというのが我々の課題ではないか、大体そういうふうに考えています。

○菊池 ちょっとごめんなさい。糸井さんは後でまた指名させていただきますが、逆算して、4時まで、あと20分ちょっとしかございません。この辺で議論を多少整理していきたいのは、当初、高木さんから出されました他の分科会との合同会議といいたいでしょうか、これをやろうかやるまいか。情報交換は合意を得たわけですがけれども、そういう方向を考えるとどうか。

それから、残っている課題としては、一応私がこういうのをつくりましたけれども、例えば、自治基本条例のところには理念的なもの、抽象的なものを、言葉は悪いんですけども、全部一緒くたにぶっ込んだんです。皆さんの中で不満な方は大勢いらっしゃるんじゃないかと思うので、組みかえしてくれとか、いろんなことがあるかと思うのでお聞きしたいなということ。

もう1つは、今、高木さんもおっしゃったように、自治基本条例とはいかなるものなのか。皆さん十分知っていられる方もいるし、そうでない方もまだいられるかと思

うので、ちなみに申し上げます。

よい例は、私の知る限りで言うと、川崎市が非常にわかりやすいです。といいますのは、市民の方がつくられた素案までインターネットに載っているんです。ですから、市民の皆さんが自治基本条例というのはどういうものなのかを知る意味で大変役に立つと思います。もし可能でしたら、インターネットで全部ダウンロードできますので。素案が載っているというのはほかに余りないです。ですから、ぜひ参考にさせていただくとよろしいかと思えます。

私はそれを見た上で、大体これはここに入れておけば、どう議論になるにせよ、取り上げられる事項だろうなというのでぶっ込んだんです。ごめんなさい。そういうようなきさつでございます。

そこで、高木さんご提案の全体会議、どういたしましょうか。皆さん、どうぞ。事務局の方で何か。

○山本企画調整課長 前回のときも高木さんの方からご提案いただきましたけれども、全体会については、私ちょっと難しいなというふうに思っておりますし、それについては紙ベースで、先ほどこの会議の中で皆さんご同意いただきましたけれども、それぞれの分野でそれぞれの分野に対して言いたいことと言ったらおかしいですが、提言みたいな項目があれば、それはそのように回すという形で、紙でのやりとりという形が現実的なのかなと思っております。

その前提にある考え方といたしましては、すべての調整というのは、当初もご説明しましたように、策定委員会というところでやりたいと思っておりますし、また、ここでの議論がガス抜きになってしまわないように制度設計したのが、市民委員が1人ずつ策定委員会の中に出ていただくということで、こちらの皆さんで取りまとまった事項がなるべく調整計画の中に反映され、うまくいくように制度設計したものでございますので、そのようにご理解いただきたいと思いますと思っております。

それから、また、全体会を仮に開いたといたしましても、例えばこの委員会にしても、大きな方向性というのはそのころまでには決まるのかもしれませんが、出られた各分野20の方が20人同じことを考えているわけではございませんでしょうし、また、だれがそのことを代表してしゃべるのかという代表者の問題もあるので、ちょっと難しいかなと考えています。

もう1つ、この前のご提案というか、きょうのご提案にもありますが、市報の方につき

ましては、今度 12 月 25 日に発行される季刊誌の中の見開きで、市民会議が開かれている
ということの情報提供はいたします。

それから、これは終わった後になりますけれども、5 月ごろに提言の内容をまとめた形
の要約になるかもしれませんが、市報の特集的なページを少し割いてやっていきたいなど
思います。

ただ、途中については、やはり客観的に会議がどういう状態に進んでいるということは、
例えば論点とかははっきりしていれば、それは出せるかもしれませんが、今ここでも論点が
きちんと整理されていない状態かとも思っていますので、それを特集号というページ、2
枚とか、それだけの分量になりにくいのかなと思っています。今考えているのが C A T V、
武蔵野三鷹ケーブルテレビのシティニュースというのがございますので、長い時間ではご
ざいませませんが、そういった形で P R をさせていただいたらいかがかなと考えているところ
でございます。

○菊池 ありがとうございます。

○内山 質問をさせてください。

○菊池 ちょっと待ってください。今、整理しますと、どうも全体会議というのは時間的
にも、その他、今おっしゃったような理由から難しいのではないかと。できたら文書での情
報交換等でとどめていただけると、というようなご提案がありました。

それから、市報については今のようなお話で、できる限りの対応はさせていただくけれ
ども、中途での報告は、なるほど、考えてみると誤解を与えてもいけませんし、どこまで
伝えるかも難しいところがあるかと思っておりますので、市の側のご要望も十分踏まえて我々
は考える必要があろうかと思っております。

○糸井 でも、やろうと思えばできると思いますけどね。ほかの省庁なんか見ていたら、
そんなことやっていますよ。

○菊池 さあ、これはどうでしょうか、皆さん。じゃ、内山さん、どうぞ。

○内山 12 月 25 日付の季刊誌とおっしゃったのかな。それはどんなもので、どこで手に
入るもので、市民に周知されるものなんですか。（「季刊武蔵野でしょう」と呼ぶ者あり）
「季刊武蔵野」のことですか。

○山本企画調整課長 そうです。

○内山 わかりました。

○酒井 今、私も全体会議をやることについて、みんなが集まるのは難しいということと、

先生がおっしゃった、誤解を招くおそれがあるというお話で、全体会議と情報を、きちんとした市報の中に中途の経過報告は載せないということだったんですけれども、誤解を招くこともあるのかな、そうなんだなと思いながら、でもやっぱり紙ベースで、あそこはこういうことをやっているという、これは本当に個人的な、ばかなことを言うかもしれないんですけれども、そういう情報と、あと全員が集まらなくても会って、それがきちっとした公文書にならないとしても、「どう?」「こんな感じ」とかって、そういうことを話す場というのは欲しいなと単純に思うんです。

それが、例えばオフィシャルなペーパーになって市民に出されるのは、おっしゃるように、本当に誤解を招くから、してはいけないのかもしれませんが、会っちゃいけないのという感じなんですけれども。

○松村 市民実行委員会の事務局がだめなら、場所だけ貸していただければ、そこは構わないけれども、それぞれの分野の人たちが、自分たちのところはこういうふうに行っていると理解していることと感想みたいなことをみんなに言ってもらえばいいわけで、きちんと記録をとかというんじゃなくて、せめて場所だけでも提供してもらえば、ほかの人たちも聞きたいと言うし、個人的に知っている人に聞くので、その部の会のことしかわかりませんから、そんなにかたく考えずに、そういうオープンな場をつくれればいいんじゃないかなと思いますけれども。

○宮本 場所設定だけという……。

○松村 それはそれでいいんじゃないですか。仕事じゃないですから、手当も出ないですから、自由にご参加くださいというだけのことで、僕らも勉強するために聞きたいというだけのことから。

○酒井 すごく建設的な意見に、自分の今まで言っていたものが、井の中の蛙だったなみたいな形で意見が変わってくるかもしれない。私は、きちっとしたものにならなくてもいいから会いたいなというのはあるんですけれども。

○菊池 第三者的な言い方で申しわけないんですけれども、これは一番大事な局面なんですよ。市当局と皆さんの攻防なんですよ、今まさに。変な言い方ですけどね。これを市民の皆さんが、市の側の事情はわかる、だけど今、市民として大事な局面だからやりましょうと皆さんが決めればそれでいいんです。今、松村さんがおっしゃったとおりだと思うんです。市当局の方には申しわけないけれども。第三者的な言い方をするとそういうことです。だから、皆さんの踏ん切り一つだと思いますね。

○酒井 例えば、これが会議と名がついてしまえば多分だめかもしれないけれども。

○糸井 やりましょうと決めればいいのよ。市はどこまでなら手伝いができます、場所は貸せます、お金は幾らまで出せますと、(笑) そういうようなことを言えばいいのよ。

○澤田 お金はもらわない方がいいでしょう。

○西村 交流会ぐらいの軽いのりというか、ただ、必要なのが場所と名簿と、郵便で出すかメールで出すか、伝達の方法、そこのところを、いつものやり方で連絡をあれすれば。

○酒井 名簿がだめなら、そこの部分は市の人がきちんとやってくれて、あと場所をつくってくれれば、その中での係は全部やりますよと、今おっしゃったように交流会という形で、そこで出た意見がこの会議の中のものにオフィシャルに反映されるものではないということを明確にきちんと目的を書いた上でやれば、特に問題ないと思うんですけどね。

○長屋 関連してちょっと。いいご意見だと思うんですけども、私は今いろいろお聞きしていて、この会は半年で解散みたいな形になるんだけど、あと4つ分科会があって、この100人で、入れかわりはあってもいいんだけど、3月以降も、要はこれで終わりじゃないですよ。いろいろチェックしていかなきゃいけないから、3月以降の持続的な組織をつくる。そのときには場所とか何かが要るわけです。場所を何とか、これは市民と共働だから、ともに働く。これは約束してほしいというか、やってほしいですよ。

それで、三鷹の例を申しますと、三鷹と武蔵野市がどうしてこれだけ差がついたか。三鷹は5～6年前に、6～7年前かな、市は場所を提供しまして、女性を1人つけたんじゃないかな、その予算がたしか300万円、それがいろんな形で市民運動となってきたわけです。ここもいろんなものがあるんです。バラバラとあるんだけど、まとまっていないからこうなっちゃった。

僕は、哲学的に、結局自分のしたことは自分に返ってくるというのが好きなんです。いいことも悪いことも。だから、市も一生懸命やっておられて、足りないとか何か言っているのは、結果としては、自分たちが関心がなかったりして、武蔵野プレイスとかいろいろあるけれども、結局知らないうちになっちゃったということでしょう。

だから、そういうことじゃ、いろんな意味で限界が来ているから、もう許さないというか、そういう時代になっているわけだから、市民のニーズ、アンケートをやるにしても何にしても人数が要りますよね。そういうのを、これは提案になるかならないかよくわからぬけど、要するに、3カ月後のことを言っちゃあれだけど、発展的に解消するんだけど、そこで我々が核となって、そして、それこそ皆さんと一緒にやったらいいんじゃないです

か。そういうので、よりよい社会、持続的な社会をつかっていったらいいんじゃないかと思えます。

○小島 今の長屋さんのお話、それから、皆さんが各部会に出たらどうかという関連のことなんですが、私は思うんですが、子どもはそれをやりたい、勉強のためにもいろいろやりたい、知りたい、空回りしないで何をやるべきかを考えるためにもやりたい、これは本当に正しいと思うんですが、相手が喜ぶかどうか全然わかっていないんですね。相手は、余計なお世話だよというのものもあるかもしれません。

ですから、私はまず具体的にやりやすいのは、傍聴を何人か、「私はこっちに興味があってここにも提案を出しました。だから、あの会に傍聴してきます」と、1人じゃやっぱりわかりませんので、2人ずつでも傍聴して、その様子をここで報告するというのが1つのやり方としてあるんじゃないかと思えます。

それから、今、長屋さんがたまたま言われましたが、1つの提案として、長期的にやるべきじゃないかと。やっぱりこの行政改革の会議というのは、いわば会社で言うと経営会議みたいな、そういう中心のシステムづくりをしている部門なんですね、行政とか財政というのは。ですから、よその部門が事業部だと思ったら、各事業部が何をしたいのかを調べに行くわけですね。各事業部が考えていることをどうやって本当に実現するかというのが、この行政・財政改革だと思うんです。

今、長屋さんが言われたのは1つのシステムを我々がどう構築するか。それによって、皆さんが言っていることが、子どもの問題でも何の問題でも、どうやって本当に実現するかということが行政であり、財政なんですね。ですから、我々はそのシステムづくりをする会議じゃなきゃいけないと思うんです。いろんなことがここに出てきていますけれども、恐らく、皆さんの言った意見、私の言った意見も全部、各部門の人たちが言っていることと重複しているに違いないんです。

それらを本当にどうやってシステム化して行って、どうやって市民らしく、三鷹の例が出ましたけれども、そうやって5年かけても、本当に武蔵野市のために意見を言い、あるいは、さっき言いましたが市場にゆだねるとか市民にゆだねるといふものを、システムでどうやって構築していくかというのが、いわゆる経営会議という言い方を失礼、ごめんなさいですけども、1つの言い方としてわかりやすいので言うんですが、ここの行政・財政改革は非常に高度な、ある意味では総論の、それをどうするかという実現をする部署だと私は認識していくべきだと思うんです。

そこら辺がはっきりしていませんと、各事業部の人と同じことをただ繰り返し繰り返し言っても、それをどうやって実現するかということを、我々は1人1人、本当に考えていくべきだと思います。行司は先生にゆだねたいと思うんですけども。

○菊池 時間があと7～8分になってまいりました。そこで、皆さんに決断していただかなきゃならないのは、全体会議。今、小島さんのお話は新しいご提案で、この行・財政分科会は他の分科会をさらに統括するような位置づけで考える分科会なのではないかというご提案でございました。それを踏まえてどう考えるか。いずれにしても、先ほど来出ております全体会議を市民のイニシアチブでやりましょうということになるのか、1つ結論を出していただきたいということがあろうかと思えますけれども。

○酒井 今、小島さんのおっしゃったことが正しいのかどうかわからないんですけども、やはり各分科会は具体的なことを話し合っている中で、私たちは多分その大もとのところの会なんだなということを今、再認識したんですね。それを踏まえて言えば、行・財政分野の私たちが、皆さんいろいろ話し合っているけれども、いかがですか、交流会をしませんかということを提案してもいい立場なのかなというふうに今改めて思ったので、何度も繰り返しになりますが、それがオフィシャルなものではなく、単純に個人ベースの交流会という形でもしやれるのであれば、私はぜひやりたいと思いますので、そのときの係はさせてください、僭越ですが。

○菊池 具体的なことを申し上げてみます。次の1月の市民会議は23日なんです。ですから、せっかく市当局との話し合いで1月、2月、3月の予定が大体でき上がっていますので、これをずらさないような形で、もし全体会議をやる場合にはやったらどうかなという気がいたします。そうしますと、1月の中旬ぐらいでしょうか、このあたりで考えていただく。

もう一度確認します。全体会議をやりましょうということで、皆さん、合意はよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり、拍手〕

○菊池 では、そのようにしたいと思います。

それで、これは先ほど松村さんがおっしゃってくださったように、市の方に、会場ぐらい何とか確保してくださいとお願いして、あとは私どもでやる必要があるかと思えますので、皆さん、ご協力をお願いしたいと思います。

それから、他の分科会への呼びかけもありますけれども、これは日取り等、一応ここで

このぐらいということと呼びかけてみる。日取りを具体的に決めていただけるというのが一番いいと思うんですが。

○松村 ほかの分科会の日程と調整しないといけないでしょう。

○山本企画調整課長 ほかの分科会の日程でございますけれども、都市基盤が12月26日、緑が1月9日、子どもが1月13日、そして、一番遅いものが福祉で1月16日という予定になってございます。

○菊池 12月26日、これは当然外した方がよろしいんでしょうね。これに合わせるというのはとても。それから1月9日、13日、16日を外してということになるかと思いますが。

○澤田 済みません、ちょっといいですか。総論は賛成なんですけれども、我々は何か持っていけるものはあるんですか。つまり、この分科会としてですね。

○菊池 こういう案が出ていますと、裸でいいんじゃないでしょうか。

○酒井 それは文書として記録には残らない。

○内山 議論の経過報告みたいな。

○長屋 もう少し絞られてから、10ぐらいになってからの方が、やるとしたらいいと思いますけどね。

○澤田 きょう、何かこれでまとまるというふうな話を聞いていたので。

○長屋 全体の総意ではないのを、あたかもそのように言うとか、それから、そういうものをやるときは……。

○西村 このまま材料として。

○長屋 リーダーでやるときは、相当な準備をしないとなかなかそんな簡単なものじゃありません。

○糸井 長屋さん、これは最終決定されたものじゃないんです。単なる案なんですよ。

○長屋 案だけど、関心があるんだったら、当面はプライベートにやって、それでやればいいんじゃないですか。私は、とにかく今の段階は、何を提案するかということに絞って決めるのがまずやることだと思います。まだそれが決まっていないんですからね。それを持って出てどうなんですかね。

○小島 この部会が何を求めているかということをはっきり言わなきゃ恥かくと思います。

○澤田 私もそう思います。これまで半分過ぎた折り返し地点なんですよ。半分で何がまとまったのか。ただ「皆さんの意見があります。これです」というのじゃ、余りにも。

○長屋 みんなを集めてこれからパーティーをやるのが一番よかったですよ。その方が、ビール飲みながらの方がいろいろ言えるわけですから。(笑)

○西村 忘年会？

○長屋 ちょっと遅いけどね。だから、例えば、かた苦しなく率直にやるという新年会みたいなことで自発的に集まるというなら、僕は出ますけどね。

○酒井 そういう自発的な集まり。ビールを飲みながら、まあビールは出ないかもしれないけれども……。

○長屋 だから、そういうのでやってみる。まだそういう段階だと思う。

○糸井 それは同じなのよ。全然違わないじゃない。日を決めて全員が集まって話し合いましょうという程度なのよ。そこで何かを決めるわけじゃないんですよ。

○長屋 そこで、例えばリーダーというか、だれがここの代表、ある程度、代表がいなきゃいけませんよね。

○酒井 代表とかそういうことじゃなくて。

○長屋 いやいや、そうだったら、もう自分でやってくださいということで。

○西村 単なる世話人というか、その日のお世話をする人が要るでしょう。

○糸井 それはやり方の問題で、そういうやり方も……。

○菊池 じゃ時間も来ましたので、今……。

○内山 やる方向で進めていただいて。

○菊池 やる方向で話が来ているんですけども、若干巻き戻しがあったんですが、1月はちょっとほかの分科会が3つも、9日、13日、16日とあって、ちょっと無理なのではないかという市の方からのサジェスションがありました。さもありませんという気もするんです。そこで、2月という手も考えられますが、そうすると、例えば、さっき澤田さんが心配されたように、もうちょっと我々で議論を煮詰めてからという配慮も可能になるかと思えますけれども、2月ですとね。どういたしましょうか。

○松村 3月まで、その後、1回か2回しかない。

○西村 1月は1回ですか。

○菊池 そうです。1回です。

○西村 2月は2回ですよ。

○菊池 2月、3月が2回ずつございます。

○西村 ということで言えば、1月にやっちゃった方がいいと思うんですけども。

- 糸井 今の流れで5回じゃまとまりませんよ。
- 菊池 私は樂觀しているんですけどね。(笑)
- 澤田 ガス抜きになったら……。
- 小島 だめだめだめ。ガス抜きはだめですよ、先生。我々はガス抜きの話じゃ。まとめるのは我々がやるよというような話なの。それはだめですよ。
- 菊池 ですから、私が言っていますのは、10回あったとして、7～8回まではもたもたするんですよ。最後の3回ですつと行くというのが私の経験から編み出したあれです。いや、違うと言われればぐうの音もありませんけれども。
- 澤田 最初に方針を決めて、あとそれをじっくり煮詰める。
- 小島 それが本当のやり方です。最初に方針がないから、こうやってがたがたしている。まあ私の見方ですけどね。
- 澤田 私も賛成です。
- 小島 やっぱり方針がはっきりしたら、みんなその中で一生懸命、まだ何十時間要りますよ。本当に方針が決まった中で。
- 糸井 行政当局はやりたくないと言っているんだから、市民の側で日程を調整するわけでしょう、結局は。だから、世話役さんに手を挙げていただいて、ほかの分科会の方と連絡を取り合って、日程を決めていただければいいじゃないですか。1月末にできればそれでやればいいし、2月に入っちゃうのであればそれでもしょうがないんじゃないですか。
- 澤田 高木さんはそれをやるとおっしゃっていましたね。
- 糸井 それでいいじゃないですか。
- 西村 場所をとるといった話があるから、例えば1月の最後の週は2月にかかるでしょう。最後の週と決めたら、そこで場所を借りられる日にちを2つぐらい決めていただいて。
- 高木 それこそ土日でも大丈夫なんですか。
- 糸井 土日だったらあいているわけでしょう、会議室は。
- 菊池 事務局さん、どうぞ。
- 山本企画調整課長 先ほど、小島さんからのご発言で、我々の部会でやりたいと思ってもほかはどう思っているかわからないという話もちよっとありましたが、これから先の日程を申し上げましたけれども、1月16日までずっとそれぞれの会議が入っていますので、それぞれの中でご提案して、呼びかけていくということ是可以できるかなと思います。例えば、1月の最終の土日ぐらいで会場がということであれば、とりあえず確保はいたしま

すけれども、私どもの考え方は先ほど述べたとおりでございますので、基本的な呼びかけから、位置づけも懇談会というようなことになると思いますし、運営ということから、それは皆さんでお決めいただければ、基本的なサポートというんですか、会場の確保とそういう形での連絡ということについては、こちら側で行うようにいたしたいと思います。

○菊池 ありがとうございます。それじゃ、そういうことでよろしいでしょうか。

○藤本 ちょっと関連しまして。この会議議事録は非常によくできているので、各分科会の最新版をいただけると、何やっているかというのがある程度わかるなと思いますが、いかがでしょうか。

○名古屋財政課長 行・財政もそうなんですけれども、各分野のものはホームページから見ることができますので。ただ、そういうツールがないとか、紙で配布してほしいということであれば、私の方にご連絡いただければと思います。

○菊池 それでは、時間も過ぎていきますので、そういう方向で検討するというので、今後の連絡はインターネット等でさせていただくということでもよろしいでしょうか。

それから、最後に 30 秒ほど。最初に方針があってやればこんなことにならなかったんだというご指摘ですけれども、それは市民会議なんですから、市民の皆さんがゼロからやるというのが私の基本姿勢ですので、誤解のないようお願いしたいと思います。

○澤田 いや、そうじゃなくて、最後の 3 回でぴしっとまとまるからという言い方をされると、我々としてもそんなに簡単に、それはシナリオがあって最後にまとめられるという……。

○菊池 いや、そうじゃないです。シナリオはありませんよ。そうじゃなくて、最初はもたもたするけれども、皆さんで自動的に決まるということで、こっちは何もシナリオは持っていません。

○澤田 我々はきょうまでにまとめるということで、私その心づもりで来たんですけれども、我々自身の振る舞いとしてはどうなんですか。他とのかかわりはそうなんですけれども。

○小島 もうそろそろね。

○菊池 ですから、そういう意見をどんどん出していただくことが大事なんじゃないでしょうか。

○酒井 きょう私も決まると思ったけれども、決まらないから、これはみんなの中でどうしていいのかわからない。今すごい重要とおっしゃったから、その意味においても、みんなでほかの

人たちと交わってラフな意見を聞くということは、私はすごく重要だと思ったのでぜひやりたいと思った。

○澤田 それと、私が言った投票ということについても、何人かの方は賛成ということで、それについて具体的に何かやるということは、ここで決めないんですか。

○菊池 私、当初申し上げたように、澤田さんの投票制度がありますねということは申し上げていますよね。これは皆さんの話し合いです。

○小島 だから、何をやるかをきょうちょっと決めて別れたいと思います。

○酒井 そうですね。

○長屋 これで大事なことがあるんですよ。特別会ですか、1月何日。そのときに、市民だけなのか、先生、それから市役所のお役人も出るのかね。僕は市民だけでいいと思う。それで、これから解散して、市役所の方と傍聴の方はお帰りいただいて、我々だけでどうするかと決めたらいい。

○内山 作戦会議ですか。(笑)

○長屋 本当にだれが出るかって、これは大変ですよ。

○酒井 その日の日程に合う人が出る。

○長屋僕は市民だけでやった方がいいと思うね、性格として。だからこそ、ここの部がリーダーをとるんだったら、それなりのシナリオ、それなりの段取りをやらないと恥かきますよということです。ただ集まればいいというものじゃない。

○小島 次回、何をやるのか決めて帰りましょう。

○菊池 今、次回どうしましょうかということなんですけれども、それに対してどうですか。

○糸井僕は、あと5回でまとめるというのは結構大変な作業なんですけれども、せっかくブレストで3回もやってまとめられたんだから、これを生かすということでしょうがないと思うんですね。それをやるためには、ディジョンツリー分析みたいな形で、優先順位の大きいやつをまとめる必要があると思うんだけど、それは事務局の作業だと思うんだけど、それはやっていただけますか。

○澤田まとめるという作業は先生もやられたし、私もやりましたけれども、10人いれば十人十色というか、本当に大変な作業だと思うんですよ。それを続けるよりも、むしろ集約する、投票する。何度も言っていますけれども……。

○小島 まず一遍それをやる。

○澤田 そう。

○糸井 投票はいいんだよ。だけど、例えば、基本理念とかシビルミニマムということは、優先順位が高いでしょう、基本的な問題だから。そういうことが、じゃ、これでやりましょうと。つまり、一番大きな問題を決定してしまえば、その下の問題はおのずと消える問題というのが出てくるんですよ。そうでしょう。だから、そういうやり方も1つありますねという提案をしているんです。どっちにしても僕は、このままこういう議論をしていったのではうまくまとまりませんねということを申し上げているので。

それから、もう1つは、例えば財務省でやっている税制調査会なんていうのを見ると、基本的な資料というものは配られるんですよ。つまり、世の中の経済成長がどう変わってきているとか、法律がどう変わってきているとか、そういうやつの基本情報はみんな出すわけです。そういうのが僕は必要だと思うんだけど、最近3年間で武蔵野の行・財政にかかわる法律改正の要約なんていうのはまとめてくれる？ 例えばそういうのをやってくると、この議論の素材としては非常に有効になると思うんです。

○酒井 きょう話して、皆さん、自分でやっぱりこれが言いたいわとか、これはちょっと違ったかなというのは多分あると思うので、私は澤田さんの点数というか、例えば、基本理念が優先順位で来るとかそういうこともあわせて全部、点数をつけたらいいんじゃないですかと思うんですけどね。

○澤田 そうですね。ただ、先生がまとめられたやつと、皆さん個人で出したそのままの生のやつ、それぞれ両方やって集計すればいいと思うんです。

○酒井 そうすると、より精緻化されるかも。

○澤田 そうそう。先生のやつだと、何となく物足りないなと思う方はいらっしゃるでしょうし、具体的なやつだけ全部やったって、それは何かとりとめもなくなるしというようなことで。

○小美濃 とりあえず提案なんですけど、次回、いろいろ出していらっしゃるけど、その中で自分が一番大事な問題だと思うのを1つずつ出していただければ、二十何人いるわけだから。1つでも、2つでもいいかもしれませんけれども。

○澤田 例えば、先生の理念だったら数が少ないので、その中から2つとかね。皆さんの出したやつは200ぐらいあるので、その中から5つぐらい。それぞれに大体点数を、優先順位を自分の心の中でつけて次回に臨む。

○小美濃 自分のじゃなくても、ほかの方のやつでもいい。

- 澤田 もちろん、もちろん。
- 小島 日本人の好きな三択法でいいんじゃないんですか。
- 小美濃 全部の中から自分で5つぐらい出してみるという考え方もありますね。
- 小島 一遍そうやってみたらどうでしょうか。
- 小美濃 それやってみたらどうかなというふうには思いますけど。
- 安田 今みたいに、20人のものが全部2つずつ出るだけで……。
- 澤田 いや、重複してくると思う。
- 安田 重複はしてこないでしょう。
- 澤田 してこなければ、それが我々の意見ですと、それで終わりです。
- 安田 そうじゃないんでしょう。この中からだれのを捨ててもいいわけでしょう。
- 小島 捨てるんじゃないですよ。自分が5つ選ぶんです。
- 内山 済みません、いいですか。私、基本的に点数をつけて減らすということは余り有効なことではないなと思うんです。だったらば、余り精査しないで、これだけ豊富な多様な意見が出たんだというそのままでもいいって。
- 澤田 それだったら改革というのは、同じものは変えられないじゃないですか。
- 内山 ちょっと待ってください、話の途中なので。なぜ点数でと言っているかというのは、私たち20人が市民全部の意向をしょって立っているかということ、またそこは微妙な問題で、あくまでも主観としては私たちは1票1票持っているわけじゃないですか。そこで優先順位をつけるのはやぶさかではありませんが、得票が少なかったからといって切ってしまうといいのかという、そういう視点もありますよね。
- 例えば、ここに当事者として参加してこられない方の意見をどれだけ私たちが想像力を広げて、これは1票も入らなかったけど必要だよということを、やっぱりそういうふうに言っていかなければ、今まで私たちがやってきたことは何だったのかなと思いますし、じゃ市民参加って何なのということにそもそもなってしまうと思うんです。
- そういう意味で、まとめたいという気持ちはありますけれども、そこは抑制をきかせた方がいいんじゃないかなというふうに思うわけなんです。もし、ある程度まとめるのであれば、おっしゃったように、私たちの20人の中で最優先課題はこれだよとか、基本的理念に持っていくべきことはこれだよと、そういうものはこれから私たちが、得票が高いものなのか、意見を出し合ってみんなの納得度が高いものなのかわかりませんが、そういうふうにした方がいいと思うんです。

○小島 それを今やろうしているんじゃないですか。

○内山 そういう意味です。

○澤田 私もよくわかるんです。切り捨てるという考え方は非常によくない。ただ、敗者復活のチャンスは何度でも、まだ5回あるわけで。1回落ちたけど、いやいやこれはと言って、みんなが納得すれば、カウントすればいいでしょう。

○内山 視点として私は言っているんです。

○澤田 気持ちはよくわかりますが。

○内山 点数制で決めたくないということです。

○長屋 点数制で決めたくないに賛成です。

○内山 ありがとうございます。

○長屋 それで、もう一回提案します。

実はこれ、最初に僕が言ったんですけどね、これをどういうふうにまとめるか。民主的にやったら、みんなの意見を出す、意見を取り上げたらいい。しかし、その中には途方ないのもあったし、具体性がないのもあったし、半分とか3分の1になるでしょう。しかし、その中で、この20人のそれぞれ1人1人が、これだけはやりたいという思いがあると思うんです。そうしたら、23日は、A4の紙にタイトル、それから、どういう意味で行・財政改革に資すると思うか、これを箇条書きにして持ち寄って、それで討議したらどうですか。より具体的と思われませんか。その中には、20が10になるかもしれないし、ダブるかもしれませんがね。もうそれくらいの段階に来ていると私は思います。これからの時限性の問題で言ったらね。

またそれに漏れても、決してそれで終わりではなくて、2番目、3番目のドラフト制じゃないけども、新しいいいアイデアがあったらそれは取り上げるということを条件にして、それからまた、今まで何も出ていないけれども、これはいい意見だなというのは取り上げるという心の広さを持ってやったらどうですか。A4の紙に、自分はこれだけはこのように書いてきましょうよ、1月23日に。

○小島 出されたい方は出せばいいんじゃないですか。

○長屋 それは自由だけど、出されない方は、タイトルだけでも出してもらおう。そうすると、その人は意見がないということで。それが民主的じゃないですか。点数とか何とか、さっきも僕のムーバスの心なんてわかっていなかったわけだから。そうでしょう。結局どういう分野って、3つにもかかわる非常に重要な……。

○小美濃 平均すればいいんじゃないですか。

○小島 理想的なことを言われてもしようがないと思うんですよ。やっぱり身分相応の、そんなにすごいことは我々できるわけじゃないと思った方がいいと思うんです。

○長屋 すごいことでもないでしょう、これは。

○小島 いやいや、だからすごいことじゃないんだから、今いろいろ意見を言われましたけれども、皆さん民主的にそれぞれに、これだけ何時間かやったわけですから、やっぱりそこである程度多数決でやってみて、それでもまだ私は言いたいことがあるということは幾らでもこれから言えばいいんじゃないですか。そうしないと、ただ議論だけで終わっちゃうんですよ。

○澤田 壁に向かって話しているみたいになっちゃう。

○小島 今おっしゃったように、壁に向かってみんな話していて、答えてくれる人がいないわけですよ、これ。だから、行司がいるか、コーディネーターがいる場合もあるし、それから、そのまとめにみんなが身分相応に、そんなに大げさに考えないでお任せしようという世界もあるし、これは何でも、私はそんなに間違いじゃないと思うんです。みんな間違いを犯すことはないと思うんです。よりよくしようとみんな集まっているわけですから、もう少し気を楽にしてやった方がいいんじゃないかと思いますけどね。

○菊池 今までの意見を整理しますと、当初、澤田さんが提案されたように、全員が出された提案について、各項目で得点投票制はどうだろうか。それから、今、長屋さんがおっしゃったのは、自分がこれだと思う提案について、提案のタイトルと趣旨説明をA4・1枚に書いて出す、そういったような点がありました。

それから、もう1つつけ加えると、私がこういうのをつくりましたのは、例えば、「自治基本条例の早期制定」という項目1個に、実は皆さんのご提案が10以上入っているわけです。といいますのは、これ実際に制定しようとなりますと、当然そういう方面でまた委員会がつくられて、ここに出てきたような細かな、具体的な審議がいろいろ始まるわけです。その中で、この提案が当然大なり小なり取り上げられていくわけです。というように考えれば、ここでまとめた1つの「自治基本条例の早期制定」というところで皆さんの票がまとまれば、中の細かい部分はいずれそこで議論されるからというので、我々は一応そちらへお任せという形になるわけです。それが1つの時間の節約にもなるし、次の段階の議論にお任せしようということにもなるし、そこに皆さんがかかわるかもしれませんし、ということをつくってみただけです。

これは単なるたたき台ですから、皆さんの参考にしていただければいいわけですし、最終的に、次回はどういうふうにいたしましょう。絞っていただきたいと思います。

○西村 次回の話なんですけれども、長屋さんがおっしゃった、1つ書いてくるというのは、自分が出したことに限らず、これを参考にして、この中で私が大事だと思うものを3つ～5つですかね、必ず3つと決めることはなく、それはやっぱり書いてくる。その方が、点数制よりかまだいいと思うんです。

○菊池 その後どうしますか。皆さんが出してきたものを集約……。

○西村 それを23日に持ってきてそこで集約するのが困難であれば、その前に、まただれかの世話になることにもなるんですけれども、どこかへとりあえず出す。その日は20枚のペーパーを全員に渡すということも含むのではないですか。

○菊池 そういう提案、例えば、1人が3つなり5つをインターネット上でメールでどこかへ集約する。それをまとめて次回の会議で出していただく。そこで、じゃ、どれとどれを選ぼうかという絞り込みをやりましょうかとか。

○西村 ある程度できると思います。

○菊池 そういうことは可能かもしれませんね。

○西村 小美濃さんがおっしゃるように、これはこれで貴重な材料として、集約せずに、あるいは何項目か追加するかもしれないと思うんです。話の間に、これにないものがね。というようなもので、これは基本的素材として、多分、将来どこかにもお届けするということで私はいいと思うんです。ただ、私たちの中での集約の仕方は点数以外のもの。とりあえず長屋さん案、それも1つじゃ厳しいから数個ということではいかがでしょうか。

○糸井 5つや6つ、それぞれが選ぶでしょう。外れたやつはどうなるわけ？ 僕は内山さんの意見に賛成なんですけど、例えば、みんなが5つぐらい選ぶでしょう。結果としてここから外れたやつが出てきますね。外れたやつは必然的にオミットになるわけでしょう。

○長屋 いや、そんなことないですよ。

○糸井 もしそうじゃないとすれば、点数づけや5つ選ぶ必要性というのはないじゃない。だから、評価する方法というのは幾らでもあるんですよ。ディシジョンツリーの方法もあれば、あるいは法律という形で、法律にかわった部分をピックアップしてみるとか、そういういろんな分析の仕方なんかあるじゃないですか。

○須藤 済みません。それと、先ほど、これは検討中だとか流れの途中だとかいろいろございましたね。それを色づけで見させていただいたんですが、あれをひとつだけいたら

と思うんです。そうしますと、範囲が狭められて選択しやすいし、まとまりやすい方向に行くんじゃないかと私は思っていますので、お願いします。

○名古屋財政課長 私の方で色づけをさせていただいたんですが、議論の参考にということで、コーディネーターの菊池先生からお話がありましたので、菊池先生のメモ用につくりました。内容については、実はこの前、わかっているつもりというふうに私申し上げたんですが、何を意図しているのか、この項目だけでちょっとわからない面があるのも事実です。

それは多分皆さんも同じなのかなという思いもありますので、例えば、これを出された方から、この項目の目的とか具体的な説明みたいなのがあれば、それは皆さんの順位づけというか、3つ選ぶ中の判断にもなるかなと思っていますが。私の方は、例えば市が既に実施しているという項目だけでも、そのような説明があるとありがたいと思っています。もしそれができなければ、今の状態のままで、もう一度確認してから皆さんのところに、色づけしたものを早目に配信したいと思います。もしインターネットがない方はファクスでお送りするようにいたします。

○松村 正反対に理解するような項目も幾つかあると僕は思ったんです。理解する側が、そこに書いてある項目の言いたいことと理解力が全く反対の方向、賛成と反対の方が全く違うにもかかわらず出されているものが多々あるので、市のアンケートもそうだけどね、例えば自転車問題についてどうしたらいいかということは全然違う方向だけど、ただこのところに関心があるというだけのものである部分もかなりあるんじゃないかなと、僕の理解力がないせいか、そういう部分があるものですから、もうちょっと細かく分けないと、出されていても選びようがないというのはありますね。結局自分が出した5項目を出すということになっちゃえば、全部ばらばらということになっちゃうじゃないですか。

○澤田 選びようがないでいけば、多分永遠に選びようがないです。だれが集約したって、先生がまとめれば、ちょっと細かいところが抜けるし、細かいところがいけば意図が違うというふうになる。でも、どこかで何らかの形で1度見てみたい。皆さん、何考えているかわからないですもの、はっきり言って。皆さん、おっしゃることはこんなに広がって。多分公約数で何かあるんですよ。

○松村 澤田さんがおっしゃったみたいに、最初の方に皆さんが作文を書いたときに、何が言いたくてここに書いたのか、1回先にしゃべってもらえば、本人が大体どういう意向をここに期待しているとか、こうしたいと思っていることがわかるんですけども、そ

れがなかったので、項目を言われてもどっちなのかというのがよくわからない部分がある
んですよね。

○小島 確かに、安倍首相の言っている美しい日本づくりなんて、わけわかりませんけれども、やっぱり1つのテーマづくりが、みんなの頭にある程度必要ですね。総論のように見えますが、キャッチフレーズというのがどこかにないと、みんながムーバスから駐車場まで全部言い出したら、何を本当に重要視するのかははっきりしないんですよね。だから、「弱者を救済する」というのも簡単なキャッチフレーズになりますね。そういう市民らしいキャッチフレーズをつくって、それを3つぐらいにしてやるとか何かしめせんと、まとまらないですよね、これ。細かいことを全部やっていたら。キャッチフレーズがないと。

○糸井 細かいことをやるわけではなくて、例えば、宮本さんが主張されている借金経営は嫌ですねというようなこととか、そういうのは基本的な問題だから、そういう方向でやりましょうということになれば、この中の幾つかは後回しにしましょうとかということになるんですよ。

○小島 それを決めないとだめなんですよ。どのキャッチフレーズを本当にやろうかということも3つぐらい挙げてまとめるようにしないと、皆さん。

○澤田 必要悪だと思います。投票とか点数とか、そういうのは我々、精神的に、心の問題としては非常にやりたくない。ただ、このまま、あと5回しかない中で、我々が何かの方向を持って、何かの方向に向けて進めていく。しかも、武蔵野市のキャッチフレーズ、アイデンティティーだということまで持ち上げようという高い志があるなら、ないならいいんですけれども、そこまであるなら、みんながまとまって最大公約数を1つか2つ、今おっしゃったように見つけて、それに向かって全力を挙げるという形にする。全力を挙げたって、ほかからつぶしが入るんだから、どうせボコボコたたかれる。その中で生き残って、最後の1フレーズを残すように、とにかくそんな感じでやるしかないと思います。

○小島 キャッチフレーズぐらい難しいものはないんですよね。経営でもそうですけど、1行であらわす言葉をつくるのに大変な苦しみを突破するわけです。1行でみんなにわかるように、ことしはこうやる、これがやっぱり大事なんじゃないでしょうかね。

○菊池 キャッチフレーズという言葉で、今まで私ずっと議論をお聞きしていて、最初に申しあげましたけれども、幾つかは固まりつつあるように思うんです。幾つか出ている細かな提案が、これとこれとこれを結びつけて、こういうキャッチフレーズで行けそうですねというところが何か出てきているような気がするんです。

- 小島 出ていますよ。
- 菊池 幾つかはね。
- 小島 それをどう表現するかなんですね。
- 菊池 そうそう。
- 小島 それは、みんながどうまとまるかなんですね。
- 菊池 さあ、そこで、もう 30 分オーバーですから決めましょう。幾つか案が出ました。西村さんがおっしゃってくれたのは、1 人 3 つないし 5 つをとにかく選んでくる。
- 西村 ただ、何とかの見直しだけじゃなくて、見直しというのはどっちにも行くわけだから、中身がわかるように書いてくる。
- 澤田 この中から選択するという考え方ですか。
- 西村 基本的にはね。
- 澤田 この中のどっちですか。
- 西村 きょうの方です。ただ、国際交流の見直しということだけを書くんじゃないで、自分の思っている中身までちゃんと書くということ。
- 酒井 単純にこれとこれがいいじゃなくて、なぜそれを自分が選んだかということを中心に……。
- 西村 ほかに人に伝わるように、1 行でも 3 行でもいいけど書く。
- 澤田 そのフレーズはこの中から借用してもいいわけですね。もう既に出されたものの中から。
- 西村 そうです。
- 酒井 とにかく何も考えずじゃなくて、きちんとそれに対して自分で考えて。
- 西村 大事だと思うことを。
- 松村 字数は制限しようよ。
- 西村 多分その中から、次回、キャッチフレーズの芽は出るんじゃないでしょうか。ついでに何かひらめいたら書いておくとか。
- 菊池 じゃ、幾つにしましょうか。3 つ～5 つ、そういうふうな幅を持たせますか。
- 藤本 それは 1 つでいいですね。
- 西村 1 つじゃ……。
- 藤本 1 つのキャッチフレーズの中にたくさんの項目が入る。
- 西村 例えば、自治基本条例を書いたら、それしか書けないじゃないですか。

○内山 それに選ぶ視点として、自分が推しているからということももちろんでしょうけれども、例えば市として最重要課題だと思われるものとか、緊急性が高いとか、今分野別で分けていただいているじゃないですか。そこをそういう物差しで考えて選ぶとか。だから、最重要課題は1つだけど、緊急性が高いものは3つにしてもいいとか、そういうふうにはバリエーションできないんですか。

○菊池 ちょっと複雑になり過ぎですね。

○澤田 1位と2位と3位があるというのをうまく表現したいということだとすれば、私の頭では4、3、2になっちゃうんです。

○内山 4、3、2？

○澤田 4点、3点、2点で重みをつけましょうということになる。そうすると、この方が1点で入れたものと私が4点で入れたものは組み合わせさせて5点になるという……。

○内山 それは基本的に、私はさっき言ったように反対なので。数じゃなくて、言葉でお互いに話し合った結果、納得度が高いというものを上位に持っていくのはわかるんです。

○澤田 その言葉は既に尽くされて、ここまで来たでしょう。

○内山 先ほど、事務局からもおっしゃっていたように、これは一体どっちの意味かとりようがあるというものがまだあるわけなので、そういう意味ではまだ言葉は尽くされていないので、西村さんがおっしゃったような、例えば200字程度で、これを選んだ理由は何とか……。

○西村 もっと短い。

○内山 そんな200字程度とは言っていないけれども、限られた中でもある程度、こういうふうにしたいんだという具体的なイメージをみんなで共有できるような書き方で選んでくるとか、そういうふうだったらもっと豊かなものになると思いますけれども。

○澤田 120分割る20にすると、持ち時間は1人6分なんです。先生がまとめられる時間を含むと4分、そのぐらいで大体おさめないと、それだけで2時間使い尽くすということで、あと5回しかないということ。

○内山 ここで議論して話をする時間は限られているので、そういう意味で、ある程度文章化したものを持ち寄って、そこからまた話を進めるというのでもいいんじゃないですか。

○酒井 文章化にしてしまうとまた長くなっちゃうので、これを持ち帰ってじーっと見て、自分はこれとこれとなったときに、ここにはこういう意味だけど、自分はこうだということをも100字か何かを集約して、人にきちんと伝えられる状態にする、そういう真剣に考え

るプロセスがすごく重要だと思うんです。そして、みんなにわかるようにきちんと、5個の中に短い文章に込めてくること。次回は勝負かなみたいな感じで、私は死んでもこれをやりたいぞという、何かそういう気持ちで多分私はこれを見続けるんだと思うんです。そして、そこから5つ、私も選びたくないですよ、もちろん。さっき内山さんがおっしゃったことに全面的に賛成です。それを必要とする人が1人しかいないことを、優先順位だからというのはすごく嫌なんだけど、でも真剣にこれを見て、そうやって5個選んでくるとい作業はすごく重要だと思うので。点数制は私も嫌ですけどね。それでいかがですか。

○小島 世の中で一番いけないのは何も決めないことなんです。

○菊池 西村さんのご提案はよくわかるんですが、いずれにしても、これをもとに、既に皆さんから出された案の中から自分でこれと思うものを選びましょうということですよ。

○西村 基本的にはね。

○菊池 そうすると、それに意義づけとって言葉を加えるというのはちょっと大変なんじゃないですか。作業が……。

○西村 特に、「見直し」というのが幾つかありますね。見直しはどっち面の見直しもあるので、一言つけ加えないと伝わらないと思うので、一種の解説みたいなもの。

○菊池 これをもとに、もとの提案者が、「見直し」と言っているけれども、これはこういう意味だと、それぞれ質問してもいいし、ご自分でお答えになってもいいし、そういう形で、また文章にしてきて説明となると、大変時間を食っちゃうような気がするんです。

○西村 説明のことを考えていなかったんですが、きょう、私の、例えば市民政策室のご説明をいただく時間はなかったし、「見直し」というのは結構わかりませんよね。だから、もし私が「見直し」というところに、これは大事なものだと思ったとしたら、それについてはどういう見直しかというのを書いてこなくちゃというぐらいの感じなんです。

○菊池 ですから、私も「見直し」と書かざるを得なかったのは、さっき、松村さんがおっしゃったように、意見が両方にとれるものですから「見直し」と書きちゃったんですけどね。

○澤田 だから、さっきから私が言っているのは、多分その問題だろうと思う。「見直し」と書かれるとポジティブかネガティブかわからない。それはこっちから選ばばいいんじゃないですか、細かいところから、その中で……。

○糸井 これを直すのは簡単なことですよ。あいまいなところを直せばいいだけの話でね。もっと問題なのは、これそのものと調整計画の本体とどう整合させるかというのが

重要で、これを幾ら議論したって、これはこれで単独なわけじゃないでしょう。結果的には本編に対してどう影響させるか、反映させるかということでしょう。だから、その手順を考えていかないとまずいんじゃないですかね。

○菊池 ですから、私、当初申し上げたように、最終的にこの119ページですか、これに合わせていくということになるわけです。そのときに、皆さんが個別に決めていただければ、それに合わせていけますからということで私は思っていたんですけども、これは皆さんが主人公ですので、皆さんでお考えいただいて決めていただくしかないと思うんですが。

○西村 このままはねていくわけにはいかないから、とりあえず絞る方法として、点数も含めて幾つか出ているわけですけどね。

○澤田 点数に拒否反応が余りにも多いので、点数はなしとしても、それだったら3つか5つでいいんじゃないですか。私、そこで言いたいのは、先生が選んだ項目で必ずやる。それと、あともう1つ……。

○菊池 それは私が選んだんじゃないで、みんなが出したものを全部ひっくるめているんです。

○澤田 まとめたやつという意味の解釈で、これで1つにくくっていますよね。「市民サービスの改善」とか、私はこれがいいと思うところを4つぐらい、この中からまた幾つか選ぶというほかに、オリジナルのアイデアの中でこれだというのを入れると、どっちかわからないのがあるんですね。「職員の給与等の見直し」というのは増やせということか減らせということかわからないでしょう。だから、この辺については、こちら側から具体的なものを引っ張り出す。それを二重で考えるわけです。先生の項目のやつとご自身が出したやつの中から狭める。それでやればいいんじゃないかと思うんです。

○小島 幾つ選びますか。

○澤田 大体の目安としては数個ということなんですよね。

○菊池 延々時間があれですから、ここでもう決めましょう。

○内山 先生、決めてください。

○菊池 いやいや、私が決めるんじゃない。私は行司役だけですから。

次回、1月23日ですか、その前にインターネットでやりとりするんですけども、きょう私がつくったこれの案をもとに選ぶのと、オリジナルな、澤田さんがまとめてくれた中から3個にするか、私は5つよりは3つぐらいに絞った方がいいと思うんですけども、

3つに絞って出していただく。

○長屋 ちょっと待ってください。私は最初から1個ということを行っていますから、必ずそういうのを選択肢に入れていただかないとアンフェアですよ。

○菊池 1個にするか、3個にするか。

じゃ、1個の方に賛成の方。

〔賛成者挙手〕

○菊池 じゃ、3つという方。

〔賛成者挙手〕

○菊池 じゃ、1人3つの案を決定していただいて、これでどうですか。澤田さん、いいですか。

○澤田 先生がまとめられたこの「達成手段」というところから、まず1つですね。それと、オリジナルのアイデアの「小項目」から3つ、そういうことでよろしいんですか。「中項目(1)」と「小項目」から。つまり細項目も入れますかということです。

○糸井 「要望事項」から4つなり選べばいいんでしょう。3つか。

○菊池 その方が単純でいいんじゃないですか。

○澤田 この全部からですね。

○菊池 後からそれは整理できますからね。

それでは、そういうことにいたします。当初、皆さんが出された案の中からそれぞれ3つ選んで、澤田さん、ネットでそちらへ行くという形でいいですか。

○澤田 構いません。

○菊池 じゃ、インターネットでそういうやりとりが困難という方はファクスでしていただくということよろしいですか。

○宮本 ファクスはどこに送るんですか。

○澤田 これは、私はBの何とかと何とか何とかという形でただ集まってくるだけですよ。市だけでもだめなんですか。

○名古屋財政課長 いいですよ、こちらで取りまとめても。

○酒井 選んだものに対して自分の思いというものは次回に持ってくるということですか。

○澤田 次回以降、またそれをもとに。

○菊池 じゃ、事務局の方で。ごめんなさい、澤田さんに直接と私今申し上げましたけれども、事務局の方にその取りまとめはしていただく。

○内山 いつまでで。

○菊池 期限を決めたいと思いますが、事務局としてはどうでしょう。作業の手順で、23日ですから、20日ぐらいまでに。もっと早いですか。

○名古屋財政課長 20日は土曜日なので15日というのはどうでしょうか。

○菊池 じゃ、15日までということですが、よろしいでしょうか。

それで、15日にまとまった分は、事前に皆さん入手した方がよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○菊池 じゃ、そうしましょう。それもよろしいですか。

○名古屋財政課長 はい。

○菊池 それじゃ、15日までに必ず送信してください。事務局の方から、全体をまとめたものをまた皆さんの方にフィードバックいたしますので、それはいろいろごらんになっていただいた上で、23日にお集まりいただき、その段取りでよろしいですね。

○安田 記号でいいですね。記号を3つ書けばいい。

○宮本 あと説明をつけて。

○安田 説明はつけないでしょう。

○宮本 つけてもいいんですよね。

○安田 いや、送信するのに。

○菊池 間違うといけないので、原タイトルも一緒にお願いします。記号だけじゃなくて。

○小美濃 番号が入っているから番号か何かでもいいわけですよ。

○菊池 間違えるといけないので、済みませんが。

○酒井 交流会は。

○高木 交流会は、まだ23日の後、現実的にはそういうことになるでしょうから、23日に終わった後に少し時間をいただいて、その運営の仕方についてご相談するとしても、時間と場所だけは、ここで一番可能性の多いところで。

○山本企画調整課長 今の件ですけれども、こういう大きな会議を開くには幾つか準備することがたくさんあるんですね。その分担をどなたがなさるかとか、こういうことが可能なかどうかというのを、ちょっと私と詰めさせていただきたいと思うんですが、それはどなたと詰めればよろしいですか。

○高木 とりあえず私と詰めて。

○山本企画調整課長 わかりました。じゃ、それは高木さんとちょっと話をさせていただ

いて。それで、日程は1月の最終の土日のどちらかということで、会議室があいているかどうかを確認した上で再度ご連絡ということで。

○西村 27、28日ですか。

○菊池 そうです。27日か28日ということですね。

○山本企画調整課長 そうですね。27日か28日で。

○高木 できたら27日ありがたい。

○小美濃 言い出しっぺだから、それに合わせないと。(笑)日曜日ですか。

○菊池 土曜日です。

それでは、時間を長時間オーバーして会議の運営が不手際で申しわけございませんでした。

3 その他

○菊池 最後に、事務局の方からご案内がありますので、お願いいたしたいと思います。

○名古屋財政課長 きょうもお手元に議事録をお配りしておりますので、この議事録につきましては27日(水曜日)までに、何か不明な点があれば、私の方にご連絡をください。27日、何もなければ、すぐにまたインターネットで見られるように作業を進めたいと思います。

それからあと、今回お配りした次の回の議事録がことし末か来年早々に上がってきますので、それについては来年早々、今回ちょっと、会議の間があいておりますので、これはまたインターネットでお送りさせていただきます。また、それについて何かご不明な点があればご連絡をいただくという形で、議事録の方も早く公開をしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

○西村 済みません。27日の午後にちょっと大きな講演会を予定しているので、場合によっては1週間後の3日の土曜日も含めてご検討いただけないでしょうか。

○菊池 これはほかの分科会も出られないという方が結構出てくる可能性があると思うんです。

○西村 ほかの分科会の方が大勢、その講演会と重なるという意味です。

○菊池 そういのが入っているんですか。

○西村 はい、1つ入っているのです。

○内山 多少、その辺、情報をリサーチして設定していただいたらいいんじゃないでしょ

うか。

○西村 必ず27日じゃなくて、次の土日まで含めてご検討いただければ大変ありがたいんですけれども。

○島田 余りそれ言い出したら決まらないですよ。

○西村 一般的にはそうなんですけれども、何カ月も前から予定していた講演会が入っているので、ちょっとそこは厳しいかと。一応、頭に置いてください。

○菊池 どうもありがとうございました。

午後4時45分 閉会